詳細分布調査報告書

大東町の遺跡Ⅲ

―佐世・阿用―

1991年3月

島　根　県
大東町教育委員会

例　　言

1．本書は大東町教育委員会が、平成２年度国・県の補助を受けて行った大東町佐世・阿用地区遺跡詳細分布調査の概要報告書である。

2．調査の体制は次のとおりである。

調査主体者	大東町教育委員会　教育長　野々村安生
調査指導	丹羽野　裕（島根県教育庁文化課主事）
	蓮岡法暲（島根県文化財保護指導委員）
調査担当者	杉原清一（　　〃　　）
調査員	藤原友子（三刀屋町）
事務局	別所武夫（大東町教育委員会教育次長）
	松田　勉（　　〃　　社会教育係長）
	狩野　弘（　　〃　　社会教育指導員）
	長妻英文（　　〃　　社会教育主事）
	嘉本史紀（　　〃　　〃　　）

3．調査成果は分布図及び一覧表としたほか、個別にカードを作成して向後の活用に備えた。なお、遺跡番号は島根県遺跡地図(1987年)によった。

4．収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓は石塔に着目して調査を行った。

5．分布調査は踏査による地表の表徴観察をもとにしたものであり、埋蔵文化財のすべてが網羅されているとはいえない。従って分布図上の空白地でも将来発見されることが有り得る。

6．踏査にあたっては明治22年編成の字切地図（大東町行政文書）による小字地名(本書に収録）及び口碑伝承等も参考とした。

また、次の方々から情報や資料の提供を受けた。記して謝意を表します。

佐世・阿用地区各自治会　佐世公民館　阿用公民館　板持和夫　森本富雄　上原信義　蓮岡法暲　大東町税務課・農林土木課

7．本書に用いた地図は主として大東町農林土木課所管に関わる地形図であり、原則として上方を真北とする。

8．本書の編集・執筆は調査者が行った。

目　　次

佐世・阿用地区遺跡分布地図 …… 2
佐世・阿用地区遺跡一覧表 …… 6
Ⅰ．遺跡の分布概要 …… 9
　1、佐世地区 …… 9
　2、阿用地区 …… 9
Ⅱ．主な遺跡 …… 10
　1、縄文・弥生時代の遺跡 …… 10
　2、古墳時代の遺跡 …… 11
　3、中世城砦について …… 15
　4、寺社跡と古墓 …… 28
　5、製鉄遺跡・その他　―Ａ製鉄遺跡、Ｂその他の遺跡― …… 32

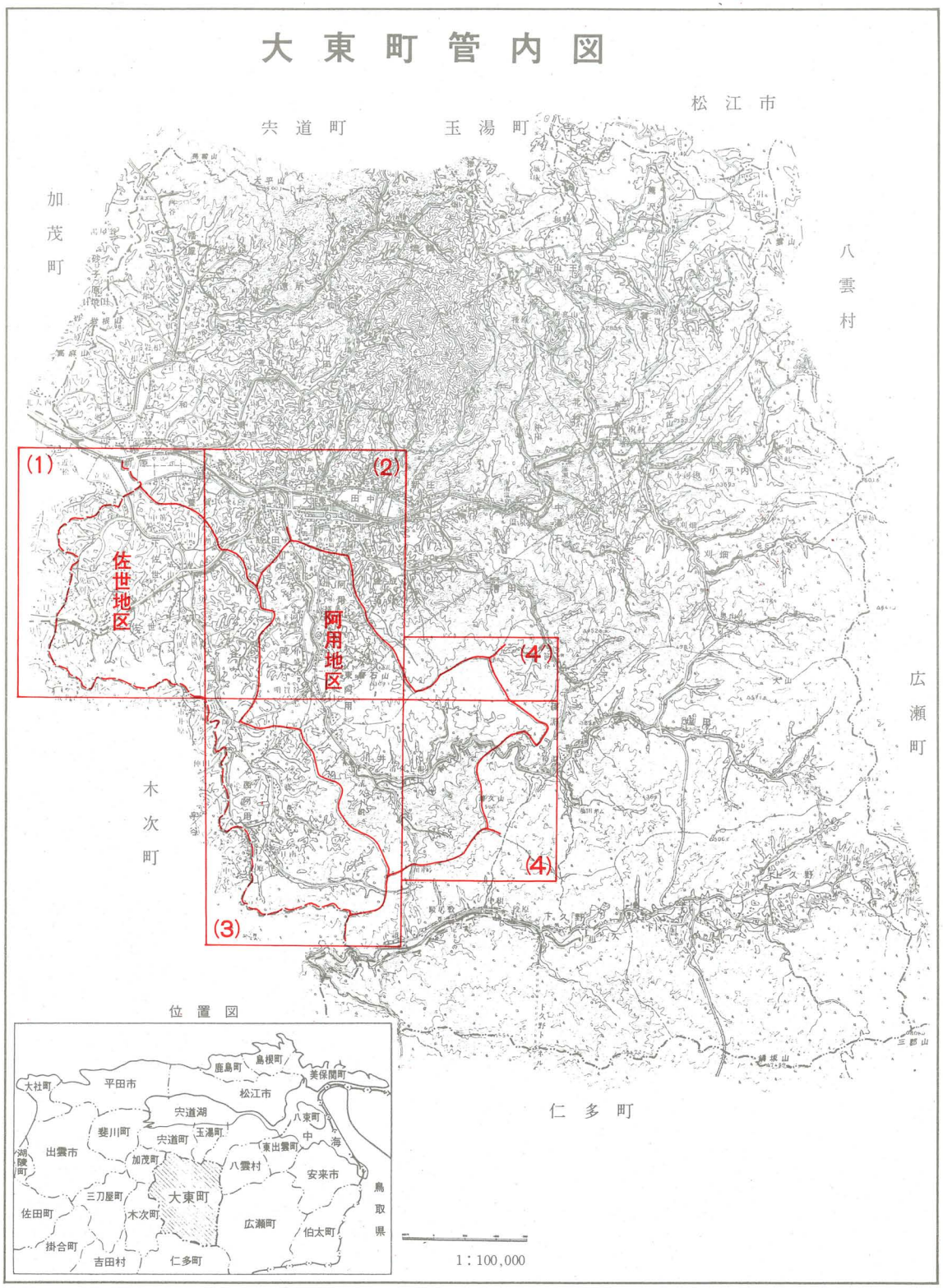
小字地名一覧表 …… 35
図版 …… 41

遺跡数一覧表

※(　　)は既知遺跡数

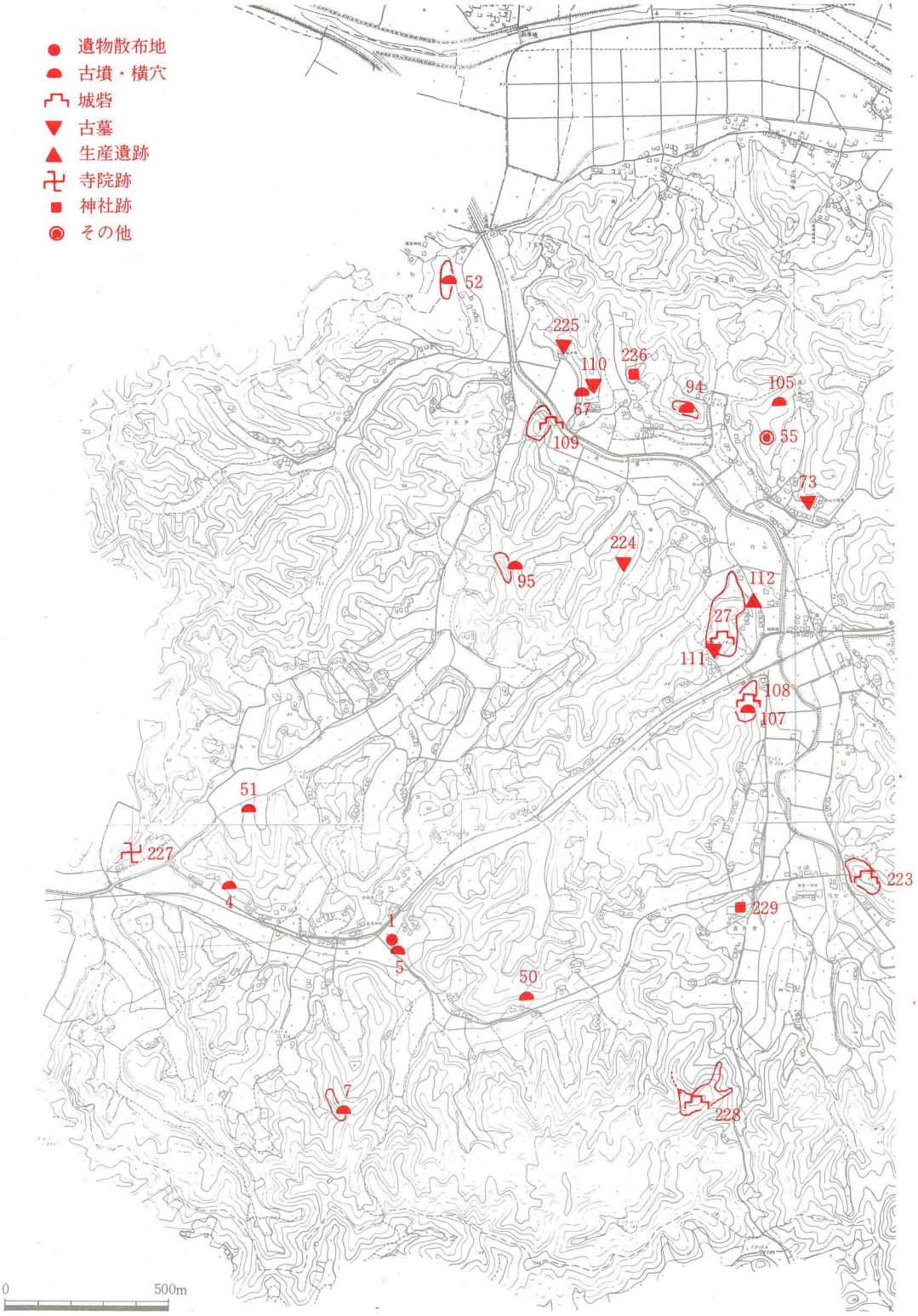
	大字	散布地	古墳・横穴	城砦	古墓	生産遺跡	寺社跡	その他	計
佐世地区	西阿用	1 (1)	5 (1)	5 (1)	2	3			16(3)
	大ケ谷		1 (1)		1				2(1)
	下佐世		8 (8)	4 (3)	5 (3)	1 (1)	1	1 (1)	20(16)
	上佐世	1 (1)	5 (5)	1			2		9(6)
	計	2 (2)	19 (15)	10 (4)	8 (3)	4 (1)	3	1 (1)	47(26)
阿用地区	川井	1 (1)	2 (2)			1	1		5 (3)
	東阿用	2 (2)	4 (3)	2 (2)	1 (1)	1 (1)		2 (2)	12(11)
	岡村		2 (1)		1 (1)				3(2)
	下阿用			1		1			2
	計	3 (3)	8 (6)	3 (2)	2 (2)	3 (1)	1	2 (2)	22(16)

大東町管内図

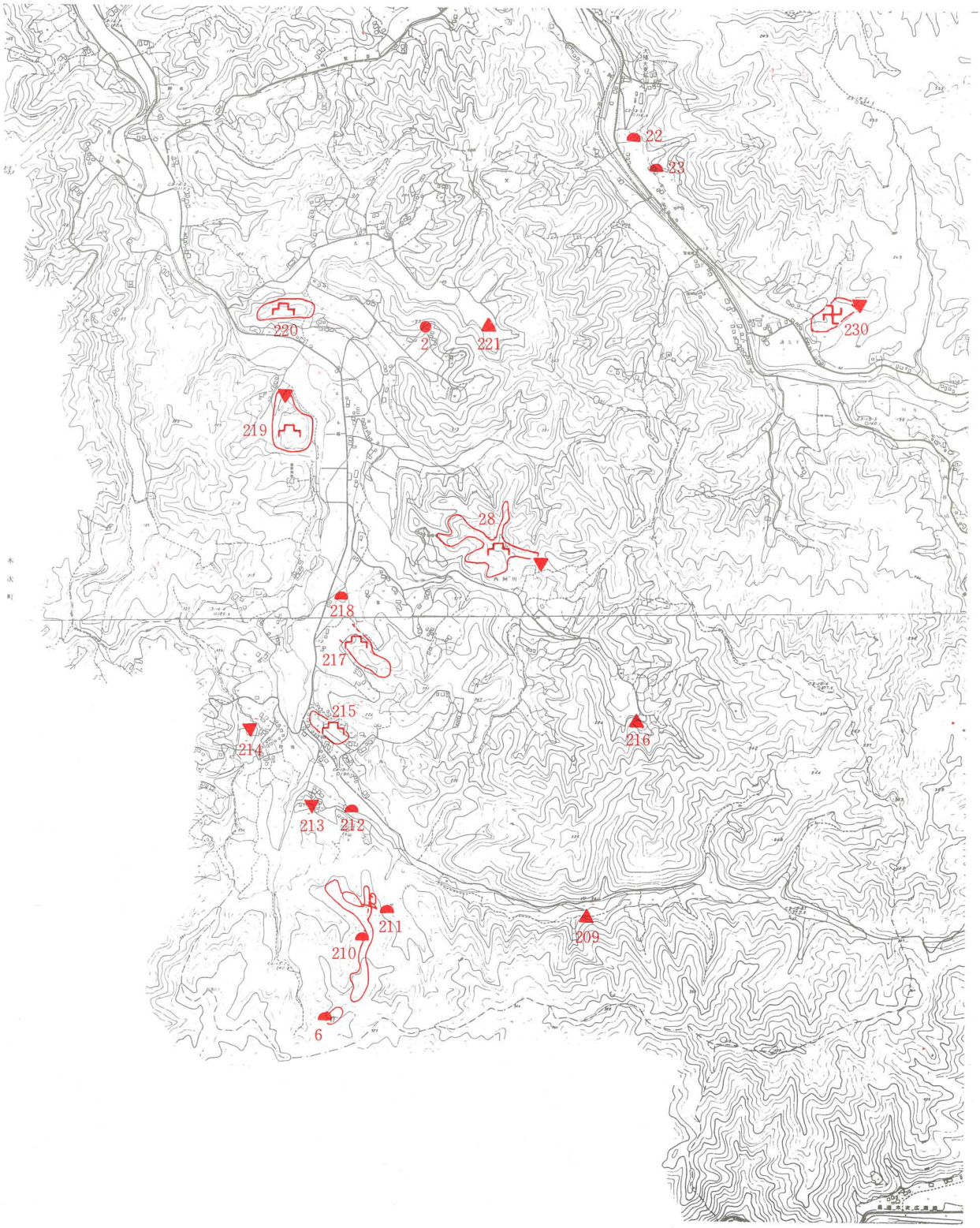

松江市
宍道町
玉湯町
加茂町
八雲村
広瀬町
木次町
仁多町
(1)
(2)
(3)
(4)
(4)
佐世地区
阿用地区
位置図
鹿島町
島根町
美保関町
大社町
平田市
松江市
宍道湖
八束町
斐川町
宍道町
玉湯町
東出雲町
中海
出雲市
加茂町
八雲村
安来市
湖陵町
三刀屋町
大東町
鳥取県
佐田町
木次町
広瀬町
伯太町
掛合町
吉田村
仁多町
1：100,000

235
49
66
106
222
233
104
103
21
86
54
234
232
101
102
68
48
96
33
90
20

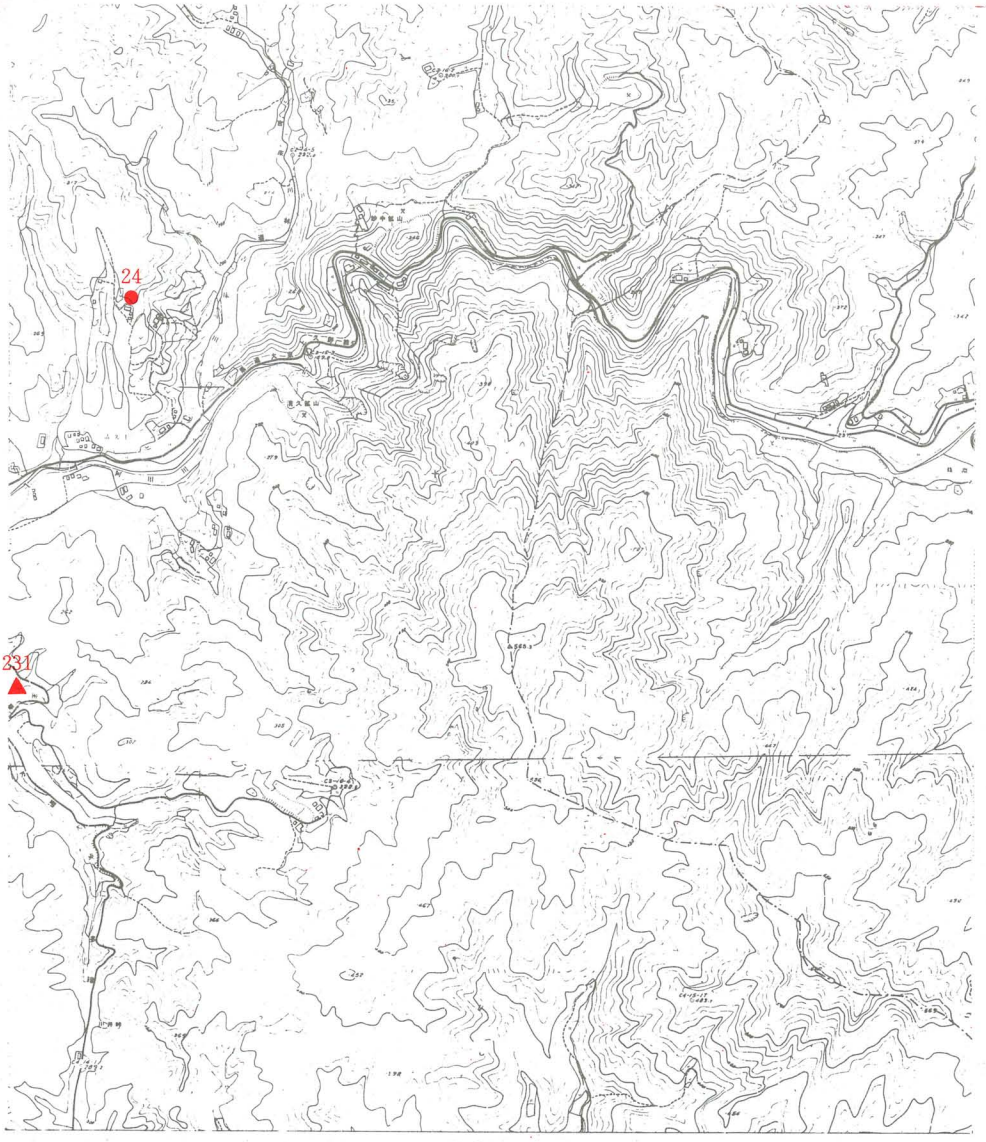
分布図（2）


遺物散布地
古墳・横穴
城砦
古墓
生産遺跡
寺院跡
神社跡
その他
52
225
110
226
94
105
67
109
55
73
224
95
112
27
111
108
107
51
227
4
1
5
50
223
229
7
228
0
500m

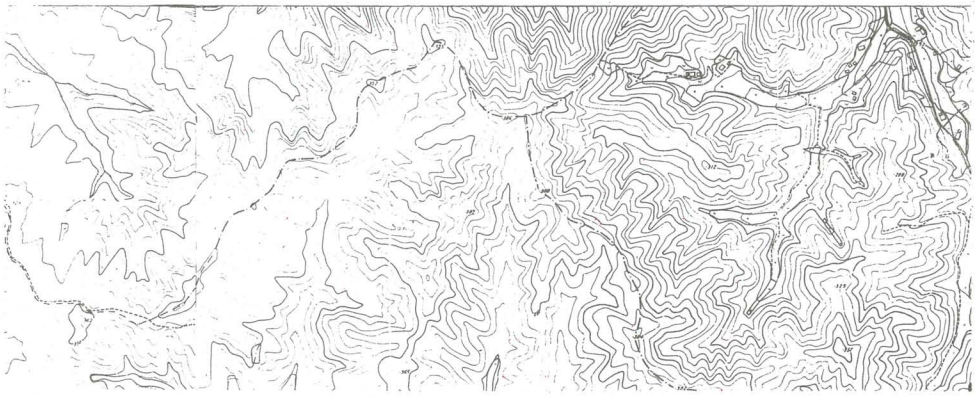
分布図（1）


22
23
220
2
221
230
219
28
218
217
215
214
216
213
212
211
210
209
6

分布図（3）



分布図（4）



分布図（4′）

遺　跡　一　覧　表

佐世地区

大字西阿用

番号	種　別	名　　称	所在地(字)	現況	概　　況
2	散布地	別所遺跡	別所	畑	古く土馬が出土して著名　高台付須恵器も　祭祀跡か
210	古　墳	陰地宮ノ奥古墳群	井堀谷・林ケ谷	山林	山陵上約500mにわたり円墳14・陪塚？2　テラス付きあり
218	〃	総荒神古墳群	外垣	〃	方墳2基か　西阿用の総荒神を祀る　台地端部にある
6	横　穴	小谷横穴群	小谷	〃	2群からなる横穴　平入りと妻入りがある　5穴残存
211	〃	陰地宮ノ奥横穴群	井堀谷	〃	谷奥行止りの丘腹上部　3群有5穴確認　他にもあるか？
212	〃	鏡横穴群	鏡	畑	佐世川河畔の崖面に2穴開口　妻入り　不整形三角形型
28	城　砦	松尾城跡	松尾	山林	比高100mの山頂から西～北西への3支尾根に縄張りす 40余郭　麓の龍徳寺も城域か　南麓に殿墓五輪塔あり 松尾弾正居城という　室町期
215	〃	日南砦跡	西光寺・大歳・弓立	〃	西阿用上口の備えか　堀切りで独立した110×30mの低丘陵 6郭あり　麓に古墓あり
217	〃	峯城山砦跡	城山	山・畑	張り出す台地上200×50m位　小郭2～3が残　大部分畑
219	〃	城戸城跡	城戸	山林	方形台状低丘陵　180×130m比高20m方形郭等18郭大堀 切り・虎口・土塁あり　戦国末期
220	〃	嵯峨里砦跡	嵯峨里	〃	前後を大きく堀切りした丘陵上　頂部愛宕社　裾部腰曲輪
213	古　墓	栗間家墓地五輪塔	宮畑	墓地	墓地内に多数五輪塔片集積　堂内に縄文時代の石器あり
214	〃	石久呂古墓群	石久呂	山林	小残丘とその裾に五輪塔片多数散乱　古戦場と伝う
209	生産遺跡	陰地ケ谷たたら跡	陰地ケ谷	水田	支谷の入口部の台地35×15mに鉄滓散布
216	〃	峯鈩原たたら跡	鈩原	荒田	小さな支谷の入口部　微高地形　約20m鉄滓散布
221	〃	若木鈩原たたら跡	鈩原	水田	若木谷の最奥部 圃場整備工事前鉄滓散布 現在見当らず

大字大ケ谷

106	古　墳	宮ノ前古墳群	宮ノ前	畑	低丘陵上　横穴式石室露呈　半壊2　消滅1　円墳か
222	古　墓	坊ノ前五輪塔	坊ノ前	山林	丘陵斜面削平段有 五輪塔群埋没か 出土石塔群堂脇に有

大字下佐世

49	古　墳	神代古墳	神代	山林	尾根突端頂部の円墳　昭和46年貯水池新設で発見消滅 簡易な箱式棺か　刀・小形獣形鏡・須恵器など出土
66	〃	白神古墳	白神	〃	(現地未確認)
94	〃	上垣古墳群	上垣	〃	南東に張り出す丘陵端頂部　∅8～10m近くに愛宕社あり
95	〃	山伏塚古墳群	山伏塚・家之奥	〃	丘陵頂部∅15m・10mの円墳2基　1基半裁して山伏塚碑
105	〃	源入寺上古墳	井戸谷東平	〃	丘陵上のマウンド　円墳1基か
107	〃	竹平古墳	竹平	〃	竹平砦の中にあり　10×10m円墳1基　テラスあり

52	横　　穴	平山横穴群	平山	崖	加茂町との町境丘陵　東丘腹に７穴以上　現在数か所痕跡　須恵Ⅳ期(加茂町遺跡№9平山横穴群に同じ)
67	〃	御室山横穴群	御室山	山林	城光寺後山２穴残存　丘陵上に古墓あり
27	城　　砦	佐世城跡	城山・古屋岡柳	公園・他	平山城300×200m 比高30m 頂部から扇形の縄張り大堀切りと後背郭群あり　公園化で一部破損　戦国末期佐世氏の居城
108	〃	竹平砦跡	竹平	山林	佐世城跡に対峙する砦 50×15～20mの長郭を主とする
109	〃	小木戸城跡	小木戸・城山井ウガ・他	〃	佐世郷下口の閉塞砦 100×100mの丘城 郭６・堀切り１土墨あり
223	〃	伝白神陣跡	白神	境内	３段の郭あり 一部分佐世神社参道 文献に毛利陣とある
73	古　　墓	伝佐世伊豆守の墓	養安寺	墓地	狩山八幡宮脇に大形五輪塔２基他有 佐世伊豆守墓という
110	〃	城光寺上古墓	寺ノ上	〃	丘陵端頂部 五輪塔片あり かつての護摩場跡ともいう
111	〃	岡柳古墓	岡柳	山林	佐世城跡内 後背砦最頂部に五輪塔・宝篋印塔墓あり
224	〃	西安寺古墓	西安寺	墓地	旧西安寺の墓地　無縫塔・宝篋印塔・五輪塔などあり
225	〃	井崎の宝篋印塔	井崎	〃	丘陵南斜面の墓地にある宝篋印塔１基
112	生産遺跡	城山下製鉄跡	城山	雑	佐世城跡北東麓　金屋子神・鉄滓少々あり　鍛冶か
226	神 社 跡	月根尾社跡	清水	境内	伏鉢状小丘頂部　30×20mの境内に碑あり
55	経　　塚	狩山経塚	狩山	水源地	２基あり　円墳状で礫を敷く　中央に須恵質の壺を埋納和鏡・古銭あり　鎌倉初期か　水源地工事で発見消滅

大字上佐世

1	散 布 地	戸井元遺跡	戸井元	畑	大正頃まで須恵器片が出土したところ
4	古　　墳	坪ノ内古墳	坪ノ内	畑・県道	県道敷設により消滅　詳細不明
5	〃	戸井元古墳	戸井元	宅地	横穴式石室を主体とする円墳か？　古く消滅
7	横　　穴	舟木横穴群	舟木	山林	かつて10穴以上あったが現在２穴残存 古く開口したもの
50	〃	内久保谷横穴群	内久保谷	〃	昭和48年畑地造成中発見消滅１穴　他にも？　須恵Ⅳ期
51	〃	勝田迫横穴群	勝田迫	〃	昭和47年災害で３穴発見　妻入り三角形様式　須恵器
228	城　　砦	つくし城跡	尽	〃	表佐世後背丘陵　比高70mの山頂　５郭及小郭　堀切り３室町期か
229	神 社 跡	江野木八幡宮跡	榎	境内	丘陵台地南向き 50×20m　後背地も削平地形 砦跡か
227	寺 院 跡	極楽寺跡	極楽寺	墓・他	木次町境の丘陵上　堂あり　墓地に五輪塔　廻国地蔵あり　砦様の構成

阿用地区

大字川井

24	散 布 地	奥川井遺跡	金穴	宅地	丘陵突端 明治頃宅地造成で和鏡・瓦器多数出土 修法塚?
23	古　　墳	垣内古墳	垣内	山・宅地	宅地拡張で昭和31年発見消滅 箱式棺の一種か 須恵Ⅲ期

22	横　　穴	石ケ平横穴群	石ケ平	山林	4穴ほどんど自然消滅　出土した須恵器・刀・鏃行方不明
231	生産遺跡	大内谷鈩原たたら跡	鈩原	水田	谷合流点に張り出す台地　5×10m鉄滓散布　金屋子神碑
230	寺 院 跡	禅僧院跡	禅僧院	山・畑	丘麓台地上100×40m削平段2　後背に古墓　丘端に天神社

大字東阿用

68	散 布 地	宮谷遺跡	宮谷	境内	阿用神社社殿の前後あたり　かつて須恵器が出土という
96	〃	下樋口遺跡	樋口・外土井・田端	水田	磨石山西麓台地広範囲にわたり水田下から弥生後期～古墳時代土器を採取
20	古　　墳	叶坂古墳	叶坂	畑	円墳か　横穴式石室露呈　割石構築　半壊
48	〃	天場遺跡	天場	山林？	山裾の微高台地粘質土(レンガ用土掘跡)に土拡状ピット数個点在　須恵器Ⅱ期　土拡墓群か　消滅
232	〃	笹屋古墳	笹屋	竹林	横穴式石室一部残存 幅1m余 奥行0.6m残存 墳丘削平
21	横　　穴	後山横穴群	福留	山林	横穴5穴　現存3穴妻入り　須恵器・人骨出土 昭和17年土砂採取で発見
33	城　　砦	阿用城跡	磨石・野田奥	〃	磨石山山頂に主郭群　北西への2支尾根に副・張出し郭群合計60郭以上　主郭部に焼米出土という　阿用入道(桜井)宗的の居城 尼子経久により落城 比高170m 室町期の城
86	〃	福富城跡	福留・他	〃	阿用小学校東側の小丘陵にある平山城 堀切りを活用した縄張りで10郭以上 一説に阿用城の向城として尼子氏築城
102	古　　墓	阿用神社脇古墓	瀧戸	境内	2段の平地に五輪塔片散乱
101	生産遺跡	笹屋たたら跡	笹屋	宅地・他	宅地前方の畑・現道路敷法面に鉄滓散布　宅地内に金屋子神碑あり
54	祭祀遺跡	善明寺後山遺跡	土戸井	山林	寺院後背丘頂にある一石経塚
90	古銭出土地	便坂遺跡	便坂	畑	阿用城跡西麓の台地、中世渡来銭約3,000枚を小土坑に備蓄　平成元年発見

大字岡村

233	古　　墳	紙屋古墳？	紙屋	山林	谷間に突出する丘陵上8×8mのマウンドあり　円墳か
103	横　　穴	岡村八幡宮横穴	宮ウ子	境内	拝殿東側に1穴　半分開口
104	古　　墓	川平古墓	川平	山・墓	阿用川沿いの墓地に龕入り宝篋印塔1基 近くに字大澤寺

大字下阿用

235	城　　砦	駒谷砦跡	駒谷・駒	山林	比高70mの山頂と支尾根の基部120m4郭　堀切り4　物見砦跡
234	生産遺跡	扇谷たたら跡	扇谷	〃	金屋子社あり 谷口扇状台地に鉄滓散布 江戸時代後期か

Ⅰ．遺跡の分布概要

1．佐世地区

佐世地区は赤川の支流である佐世川の流域にあって、下佐世・上佐世・大ケ谷及び西阿用の4大字区域からなり、古代の佐世郷の大部分が含まれる。

佐世川中流域の平坦地を中心とする下佐世・上佐世地内には、古代から中世に至る多くの遺跡がみられ、郷の中心としての歴史が展開されたところである。また西阿用地内は地形的に独立した集落をなすところで、各時代の遺物が認められた。

これらのうち古いものでは縄文時代の石器（西阿用陰地地内出土）や、水に関する祭祀用とみられる奈良時代の土馬（別所遺跡)、神代古墳（消滅）の小型銅鏡など、町内では例のない出土遺物がある。このように古くから人々の生活が営まれており、中世には山や丘に多くの城砦が築かれて今日の集落へと発展している。特に西阿用陰地の後背丘陵上は一大古墳群であり、円墳と横穴が群集し、古代の主要集落の存在が窺われる。

中世には八所八幡の一つ白上別宮が祀られ、山頂の山城として西阿用・松尾城、上佐世・つくし城が築かれ、下って西阿用・城戸城、下佐世・佐世城が丘城として築かれている。またそれらに関連すると思われる出張り砦や物見砦もあり、また白神山には毛利陣跡の伝承地もあるなど錯綜する中世史を思わせるものである。

また広く奥出雲は古くから製鉄の盛行したところであり、佐世地区でも山峡地帯にはたたら製鉄を示す地名が散在するが、現今に至ってはそれを立証する遺物遺構は極めて少ない。

2．阿用地区

赤川の支流阿用川の中～下流域にあり、下阿用、東阿用、岡村及び川井の4大字区域である。古代以来「阿用郷」「阿用荘」とよぶ区域で概ね東阿用を中心とする地区である。

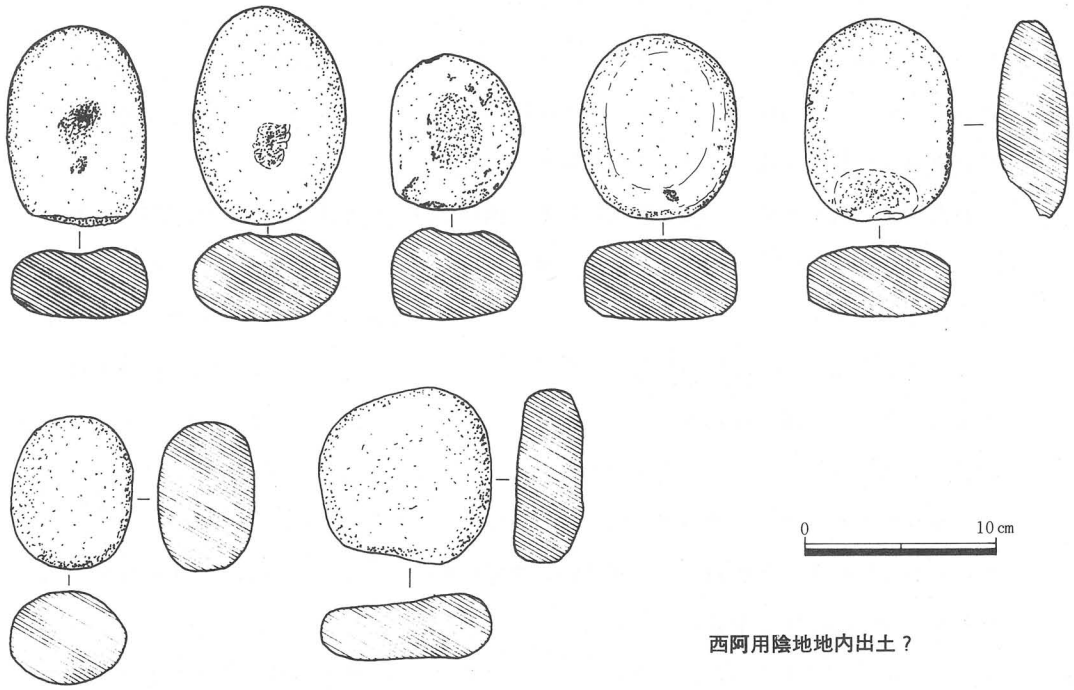
古墳・横穴や弥生・古墳時代の遺物は主に磨石山北西麓台地あたりに散見され、町内では稀れな横穴式石室を主体とする叶坂古墳は古くから知られている。

中世では土豪桜井宗的の拠った磨石山頂に築いた阿用城は著名であり、隣接の蓮花寺を含む要害堅固な山城である。なお先年この西麓から多量の備蓄銭が出土して、主要居館の位置を暗に示していると思われる。

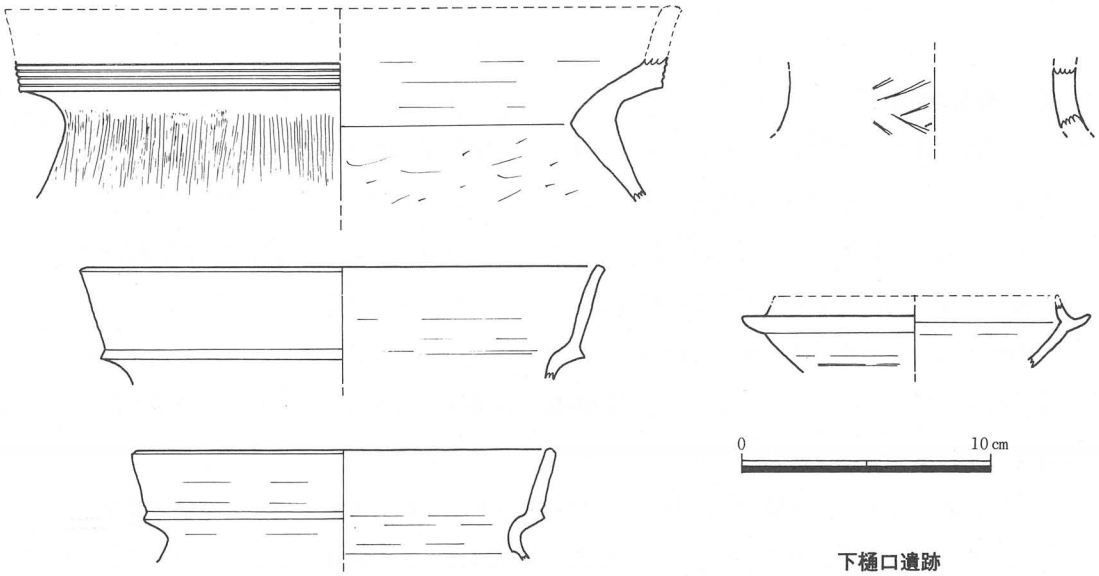
上流にあたる大字川井地内には多くのたたら製鉄を示す地名があるが、近年まで操業していたモリブデン鉱山の諸施設によって位置や旧状はほとんど破損しているものと思われる。

Ⅱ．主な遺跡

1．縄文・弥生時代の遺物



西阿用陰地地内出土？



下樋口遺跡

図１　遺物図(1)

佐世・阿用地区内において縄文時代遺跡は明確ではない。

しかし西阿用栗間家墓地の隣りにあり同家の祀る毘沙門堂の中に奉納された円礫が多数あり、そのうちに7点の石器が混入していた（図1）。長円形扁平に磨かれた長さ10cm前後、重さ500gぐらいの握り易い石で、端部には叩き潰れがあり、面は磨り痕や中央には凹みをつくるなど、叩く・擂る・硬い実を置いて砕く等の用途で、凹石・磨石・叩石・石皿等とよぶものである。このような縄文時代の石器は大東町内では数は少なく、礫を用いた石器はこれが初見である。出土した地点や遺構は残念ながら不明であるが、置かれた堂からすると、極く近い範囲で農地開拓で採取し奉納したものとすると、この石器の出土地はおそらく西阿用でも陰地地内の台地状地形のところとみてよかろう。

弥生時代については、大東町内ではわずかに高校グランド・田中・仁和寺に認められているのみである。佐世・阿用地区では、東阿用下樋口遺跡の古墳時代を主とする出土遺物のうちわずかに2点（図1）の弥生後期の土器片が混入しているのが認められた。しかし遺構については不明である。

2．古墳・奈良時代の遺跡

陰地宮ノ奥古墳群（西阿用）（図2）

西阿用地区の最奥部に近い陰地集落の南側後背部、集落の産土神である熊野権現の元宮の後背尾根上にあり、木次町境までの約500mの範囲に分布し、培塚とみられる2基を含む計16基からなる大古墳群である。この規模は雲南地方でも屈指といえよう。

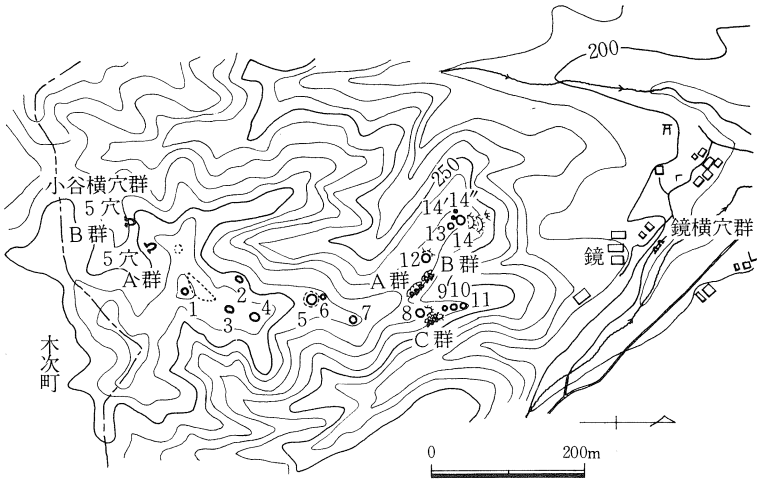
すべて円墳であり、最大は5号墳で直径13.5m、高さ2.0m、外周にテラスが巡る。その他も概ね直径7～10m、高さ1.0～1.5mである。これらは盗掘など受けておらず、古墳に伴う土器等の遺物も採取されていないため、古墳の主体部や営まれた時期などは不明である。

丘陵先端で現在の集落にかかるところにも、地形からみてかつては古墳が造営されたかと思われるところもあるが、農地や宅地に拓かれていて手掛りは得られなかった。

またこの古墳の営まれている丘陵には、3か所6群にわたる横穴墓も営まれ、古代の大きな集落墓とみることができる。これはまた、その麓にしっかりした古代集落が栄えていたことをも物語っている。

小谷横穴群・陰地宮ノ奥横穴群・鏡横穴群（西阿用）（図2）

この3か所の横穴群は前記のように、西阿用陰地集落から南へ木次町境に至る尾根沿いに所在するもので、町境に近く最も山深い所に小谷横穴群、北側丘陵先端で佐世川に面して集落内にある鏡横穴群、そして中ほどの山腹に陰地宮ノ奥横穴群がそれぞれ営まれてい



	直径	高さ	(m)
1	9	1.2	
2	8～10	1.2	
3	10	1.2	テラス
5	13.5	2.0	3
6	5	0.7	
7	8	0.9	
8	10	1.5	
9	6	1.5	
10	7	1.5	
11	7	1.5	
12	9	0.8	
13	6	1.0	
14	10	1.5	
14′ 14″	3～4	0.5	

図2　陰地宮ノ奥古墳群・横穴群

る。

小谷横穴群は陰地集落から木次町真野へ越す山路の峠近く、稜線直下南東に面してA・B２群がある。かつて土砂崩れで開口したとのことで、A群では３穴が開口しているほか埋没しているのが２穴あるようである。B群は西に約20m離れた面にあり、玄室が崩壊して奥壁のみ残る２穴のほか埋没しているものが３穴ほどあるようである。遺構のよく判るA群の３穴についてみると、１穴は玄室の横断面が幅の狭く棟までの高さが高い砲弾状の三角形をなす妻入り様式である。他の２穴は断面半円形に近いドーム形で、玄室床面は長方形をなす平入り造りのものである。出土遺物はついに見ることができなかった。

陰地宮ノ奥横穴群は字鏡からの谷間の行き詰まりの山腹にあり、すぐ上の尾根には同12号古墳が築かれている。横穴は北東に面してA群３穴、B群２穴が開口しているが、落葉や土砂でわずかに口部が見える程埋没している。A・B群とも完全に埋没しているものが他にも各２～３穴あるようである。また東隣りの尾根の東側斜面に２穴埋没したC群がある。玄室はA群についてみると断面三角形で妻入り造りであるが、その他は不明。

鏡横穴群は２穴開口している。横穴にしては珍しく川沿いの低い位置にあり、現町道の下にある。玄室は妻入りで棟線の不明な断面三角形タイプである。

以上３か所の横穴群は、その構造から大まかに横穴墓の終期頃に相当するもので、一部奈良時代にかかるころに営まれたものとみられる。

神代古墳（下佐世）（ＰＬ１）

昭和46年町水道の貯水池新設工事で発見された古墳である。佐世神社の北の尾根上にあり、直径８ｍ位と推定される円墳であった。角礫を二列に敷いた遺構があり簡単な箱式石棺のような構造と推定された。刀２本、直径7.2cmの小形獣形鏡（ＰＬ１）１須恵器片１が出土し、古墳の上には五輪塔片が１基分あった。古墳時代後期のもので緊急調査後消滅し

た。

宮ノ前古墳(大ケ谷)

置谷神社から西に延びる丘陵の先端頂部にあり、畑地の隅に石材が集積した状態で露呈している。最も先端の１号墳は半分ほど残して大きく削り取られ、２号墳は石室が露呈している。また畑中の最も高い位置には３号墳があったものと思われるが消滅しており、今では「塚大明神」の石碑が建てられている。いずれも主体部は横穴式石室であろう。

叶坂古墳(かないざか)

古くから知られている古墳で、大字川井との境に近く阿用川に張り出す丘陵突端にある。主体部は割石を積んだ横穴式石室で、封土は完全に失われて石室は露呈している。直径10ｍ、高さ４ｍと推定される円墳で、石室も長さ４ｍ、幅２ｍ、高さ1.8m位である。羨道部は崩壊、玄室は半壊の状態である。出土遺物は不明。

笹屋古墳(東阿用)

磨石山の北麓で阿用神社の近く、西に面した緩斜地の微高地形に営まれた横穴式石室の古墳である。墳丘はほとんど失われ、玄室も奥約0.6mを残して削り去られて竹林となっている。後背部は町道敷で墳裾も不明である。石室の側壁は崩れかけているが、３段以上の割石積み、天井は1.2mほどの板状石を架けている。玄室の幅は約80cmとみられる狭いものでやや小形の玄室かと思われる。出土品の有無も不明。古墳時代後～末期頃の古墳であろう。かなり古い時期に破損したものと思われる。

垣内古墳(川井)

昭和31年宅地拡張工事中発見し消滅した。叶坂古墳より南約600mの山麓に位置し、かって畑であったところである。主体部は３枚の花崗岩で造った箱式棺様のものであったと思われる。出土遺物（図３）は須恵器で高坏１、蓋坏５組が残っている。古墳時代後期のものである。

なお北隣接の丘腹には石ケ平横穴群があり、昭和10年代に土器・鉄器等が出土したと伝えられているが現存しない。横穴も現在ほとんど自然崩壊している。

内久保谷横穴(上佐世)(図３)

佐世小学校から西700m道路脇の丘陵南側で、昭和48年重機による畑地造成中に１穴発見。

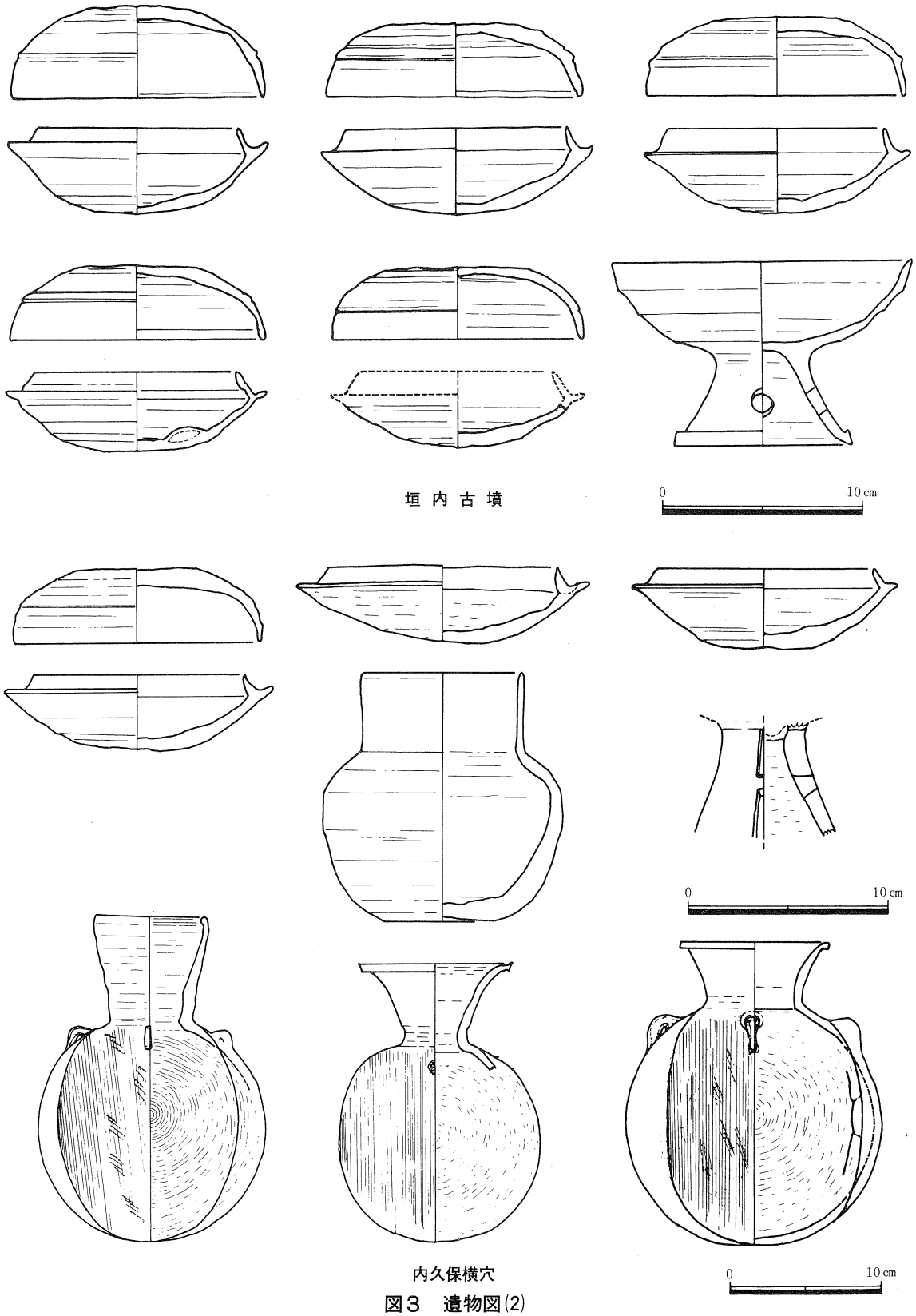


図３　遺物図(2)

他に数穴あったようだ。遺物は古墳時代後期の須恵器である。

この近くには山深く舟木横穴群（現在１穴開口）や戸井元古墳（横穴式石室・消滅）などがある。いずれも古墳時代後～末期のものである。

別所遺跡（西阿用）（図４）

西阿用中心部の東、若木集落のほぼ奥まった山麓部にあり、古く畑耕作中遺物が出土したものの。出土事例の稀れな土馬のほか土師質土器や高台付の須恵器も出土しており、奈良～平安時代の祭祀遺跡である。

土馬は多くの場合水に関する祭祀用とされているが、これはどのような祭事にかかわるものであろうか。

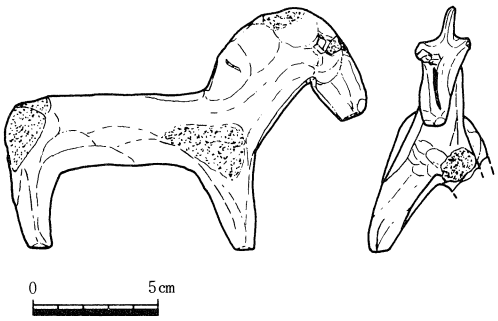


図４　遺物図(3)

下樋口遺跡（東阿用）（図１）

磨石山の西麓台地上の水田耕作土直下に主として土器が広く散布している。平成元年水田の整備工事中に三原英男氏によって発見されたもの。旧表土である黒色土中や、谷間から出た流砂の部分にも遺物が含まれている。

土器についてみると、弥生時代後期から古墳時代前期の甕形のものや、谷川を挟んで畑では古墳時代後期頃の須恵器片が採取されている。

遺跡の範囲は明らかではないが、大略50×200mにも及ぶ広い区域と思われる。これらの遺物からすると、かなり長期にわたる古代集落がこの台地上に営まれていたものと思われ、付近には未知の遺跡が存在する可能性が高い。

３．中世城砦について

松尾城跡（西阿用）（図５）

西阿用の中心部近く東側の山頂にある。龍徳寺の後背尾根を東に登りつめた、標高268m比高約110mの山頂を主郭として縄張り構成されている。

20×10m南北に長い主郭と、あまり段差がなく37×18mで西へ張り出す第２郭、さらに南へわずかに突出する第３郭が主郭部である。

第２郭から下って北西へ龍徳寺方向に長く延びる尾根上に段状の中～小郭が22段110mにわたって認められる。またこの北西郭群から小路が尾根伝いに龍徳寺へと下っている。

第２郭から南西への小さな支尾根にも同様に10段の小郭を連ねている。

主郭から北への痩尾根は、主郭直下6.5m下って二重の堀切りで切断し、一つには土橋をかけて１郭を置き、痩尾根先端の物見へと小路が続く。

主郭部から南への尾根は搦手筋及び後背防備である。突出する第３郭から南へく字状に

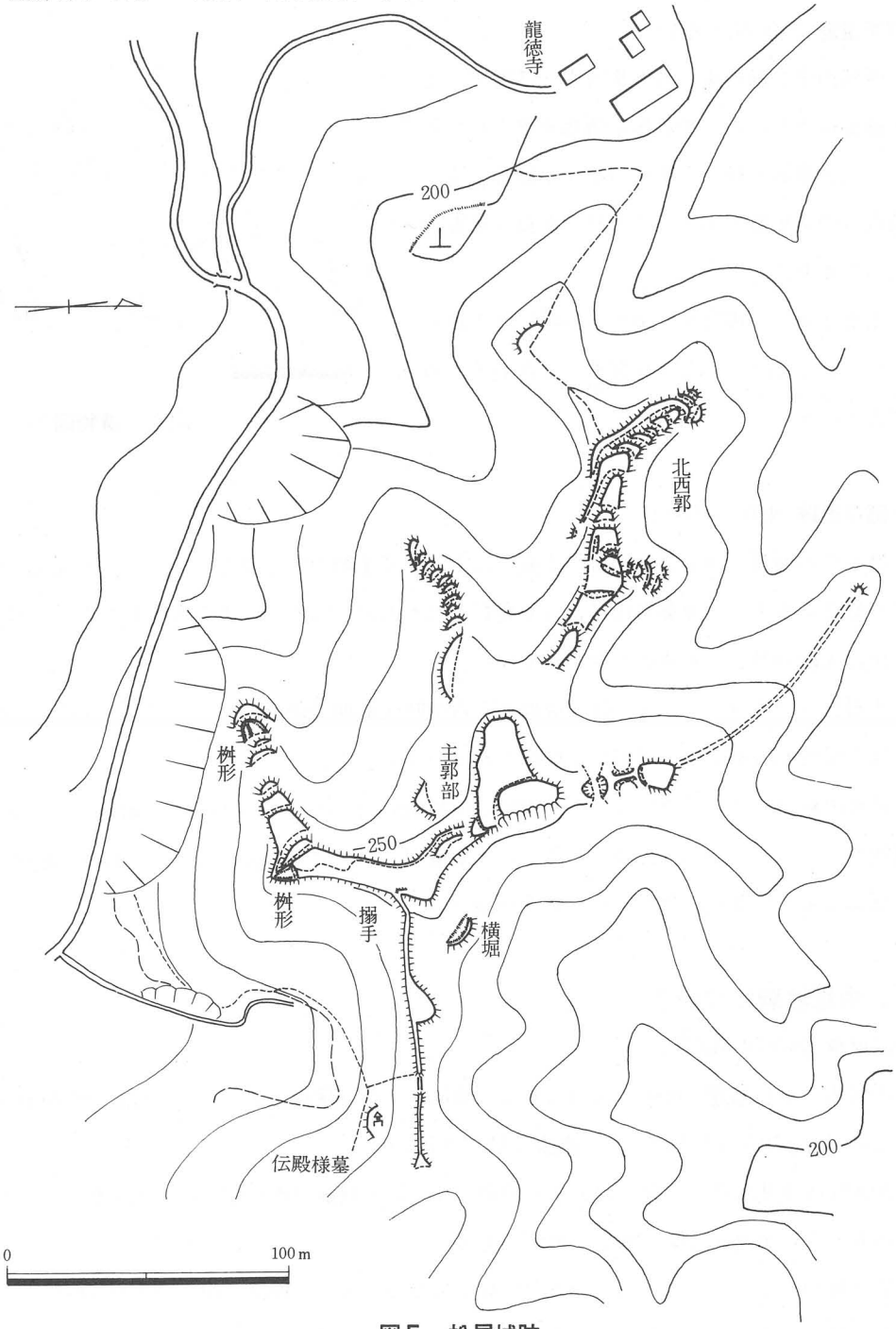


図５　松尾城跡

折曲する尾根上はほぼ自然地形のままとし、東西両側の縁を切りたてている。この半ばから東へ細く続く尾根上に搦手路を引き、最も括れたところで堀切り切断している。主郭東側は特に急峻であるが、1か所だけ斜面に半月状の横堀りをつくっている。

後背部郭群は搦手への分岐点からさらに南へ40mあたりから屈折して西へ下降する尾根上に8段続く。その南及び西端に突出する先端郭には、それぞれ先方を囲いまわすように土塁を巡らせて桝形とした郭がつくられている。この後背防備は龍徳寺と峯集落との間の谷に対するものであり、この奥には字樋尻木等峯集落奥部の退路地帯が想像される。

このように見てくると龍徳寺も城域に含み、これが大手筋であると思われ、因にその前下方には土居が地名に遺っている。

「出雲稽古知今図説」によると松尾城は赤穴玄蕃の居城としている。また龍徳寺は城主赤穴玄蕃の建立と伝えている。皇国地誌ではさらに〝年記不詳三刀屋弾正忠之ヲ火シ城竟ニ陥ル〟といい伝えを記している。室町期の山城であり、天文永禄の頃であろうか。

なお搦手口の山腹には〝殿様墓〟と呼ぶ五輪塔1基がある。

城戸城跡(西阿用)(図6)

松尾城跡と対峙する位置の佐世川の西、字城戸（俗にシートと呼ぶ）にある城跡で、熊野権現社の北隣り、頂部が広く平坦な方形の台状丘陵である。

川に沿って北に延びる低丘陵の先端部を上幅約30m、深さ約15cmもの大きな堀切りで切断して独立させ、北端の尖り部も大堀切りで切断独立させて物見の別郭群を配置している。遺構の保存は極めて良い。

南端が最も高い第1郭で、20×35mほどの長方形をなし、北にわずかの段差で第2郭、東に第3郭を配置して主郭部を構成している。

第1郭と第2郭との間に西の谷間から登ってくる大手路があり、最終折曲部が虎口となっている。この虎口を含む城域の南及び西の縁は、高さ1.8～3.0mもの大きな直線状の土塁で囲み、さらに東に約5m下った副郭群の第6郭へと続いている。第2郭の北縁はわずかに段差のある帯状の第5郭、第6郭とした部分があり、大堀切りで切断した物見郭群に面している。この帯曲輪は本来1つのものであったのかもしれない。

東に1段下った第6～第8郭は副郭群で、南北の大堀切りに面した縁は削り残した土塁とし、内側を削平して郭としている。第7・8郭から東へ下った瘤状地には第9～第13郭があるが、外縁部分は下方の農道敷設で削り取られて破損している。

北端に堀切りで独立する別郭の物見は第14郭を頂点に北へ第17郭へと下るもので、城戸の谷入口部に対する備えともなっている。南・北の大堀切りをつなぐ谷間に面したテラス

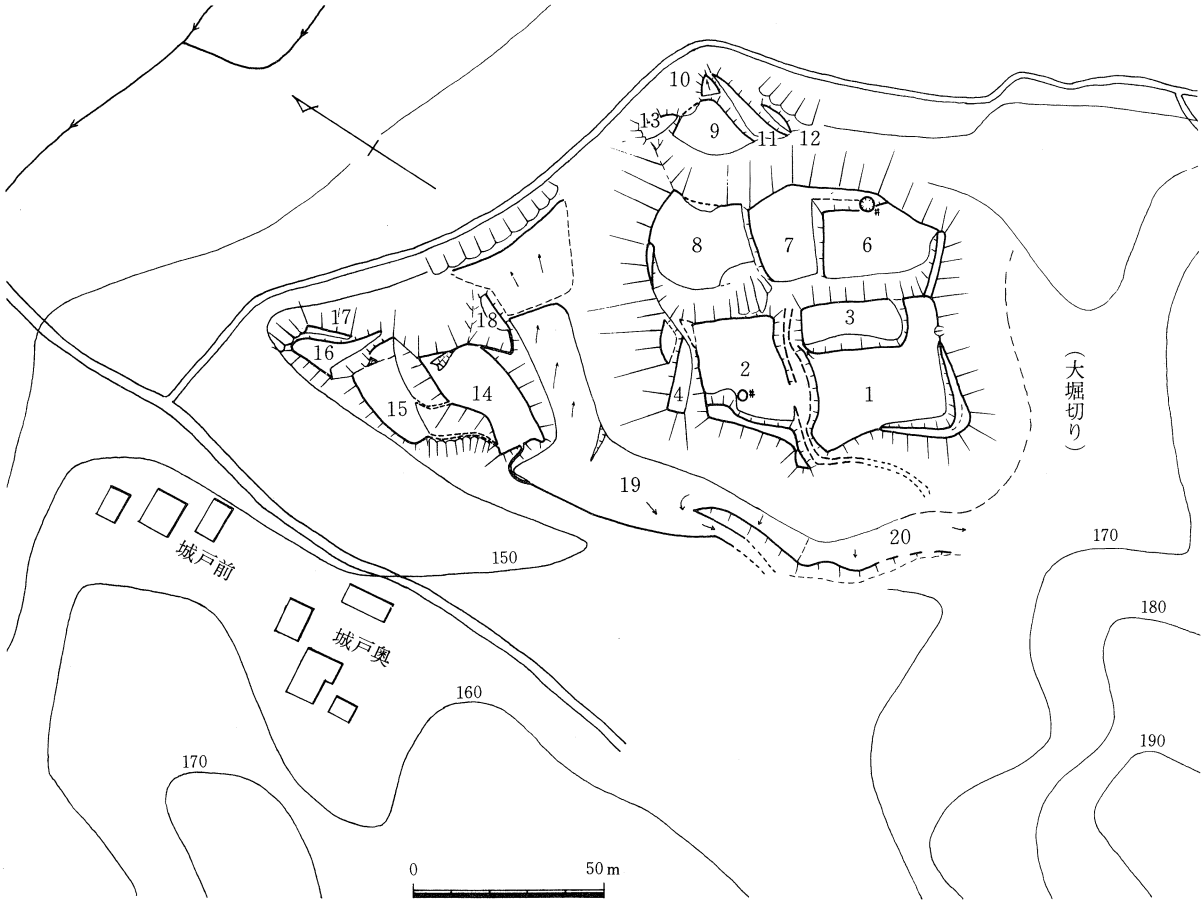


図6　城戸城跡

状の第19・20郭は城郭下端の大手入口部の虎口をなしている。

このように主要な郭は大きな方形で構成され、丘陵を切断する堀切りは極めて大きく、また土塁も直線プランの大形であり、独立した別郭の物見を設けるなど特徴的である。これらの特徴や、山城ではなく丘陵であることなどから中世末の織豊期頃の造営かと思われる。

この城郭は地元ではユーゲ（要害）と呼んでいるが、誰の造営になるものか、伝承や文献等ほとんどなく明確ではない。皇国地誌では松尾城と同じく赤穴玄蕃と記しているが、後考にまつものである。

日南砦跡・嵯峨里砦跡・峯城山砦跡（西阿用）

日南砦跡（図７）は西阿用集落の南端に位置する。字西光寺及大歳にあり、南の大字久野方面から、西正面は木次町宇谷地区からの通路の交点を眼下にする位置にあり、松尾城跡から峯砦跡を経て丘陵続きである。字早稲田を堀切りで切断した小丘陵で、狭長な稜線上の第１郭と後背面である北東側の第２～第５郭から成る。北西突端はやや広い畑地（字西光寺）で、これも郭であったのかもしれない。東側谷地形のところには「弓立」の地名

がみられる。

嵯峨里砦跡は西阿用集落の北端に位置する。城戸城跡と対峙する高い丘陵の東と西を大堀切りで切断独立させた砦である。頂部に20×18mの1郭を設けているほかは南と北の裾近く帯曲輪が認められるのみである。城戸城の出張り砦であろうか。

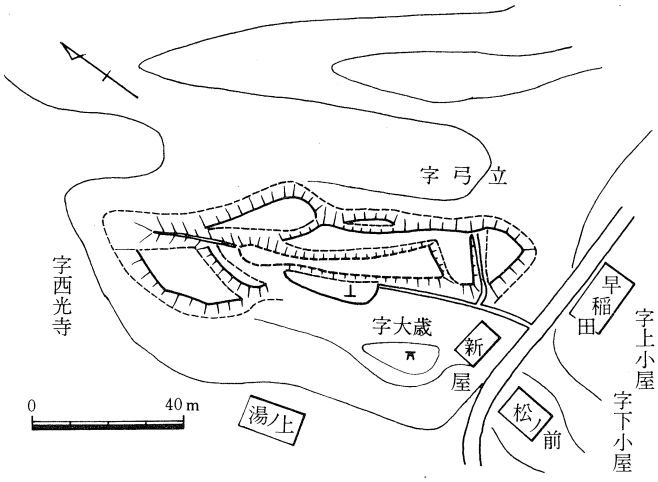


図7　日南砦跡

峯城山砦跡は西阿用中心部へ東から張り出す広い台地上で、小字地名は城山である。大部分が畑地に拓かれており、城砦の構成は判り難い。しかし付近の地名に〝外垣〟〝京墓〟などがあり、松尾城跡の南裾にあたることから麓の居館位置としては格好のところといえる。

佐世城跡と竹平砦跡（下佐世）

大字下佐世の中心部へ南西から張り出す丘陵の北端部を大きく堀切りで独立させ、北に下る地形に郭を扇形に配置し、さらに1段低く北に延びる台地上に第4郭を副えてまとめた近世的感覚の縄張りが主である。堀切りの南後背部にも丘陵上に区画された郭群を配置した後背防備がある。そしてこれらによって囲まれる東裾部には居館跡が、現在宅地となっている。主郭群は今では公園化されて郭縁部等大きく改変されていて旧状は判らない。城域はおよそ100×300mである（図8）。

また南東方向往還を挟んで対峙する低丘陵上には長大な削平面（馬場）を主郭とする竹平砦があり、本城と呼応する配備となっている。

標高80m、比高30mの丘城である本城の麓には「垣ノ内」「土井畑」「古市」などの小字地名があり寺名の字名も多く認められる。また後背防備の丘上には岡柳古墓があり、これらも関係の遺跡である。

この佐世城は、その開始は不明であるが17世紀初頭頃まで佐世氏の拠ったところである。

（1988年刊報告書参照）

小木戸城跡（下佐世）（図9）

佐世地区北端にあたり、低丘陵によって閉塞する地形の南から突出する先端に築かれた城砦である。佐世城跡から900m、標高60m、比高約20mで小字地名は「井ウガ」「城山」「小木戸」である。

丘陵端部を深さ６ｍほどの堀切りで切断し独立させた約80×100ｍの城域で、堀切りに面

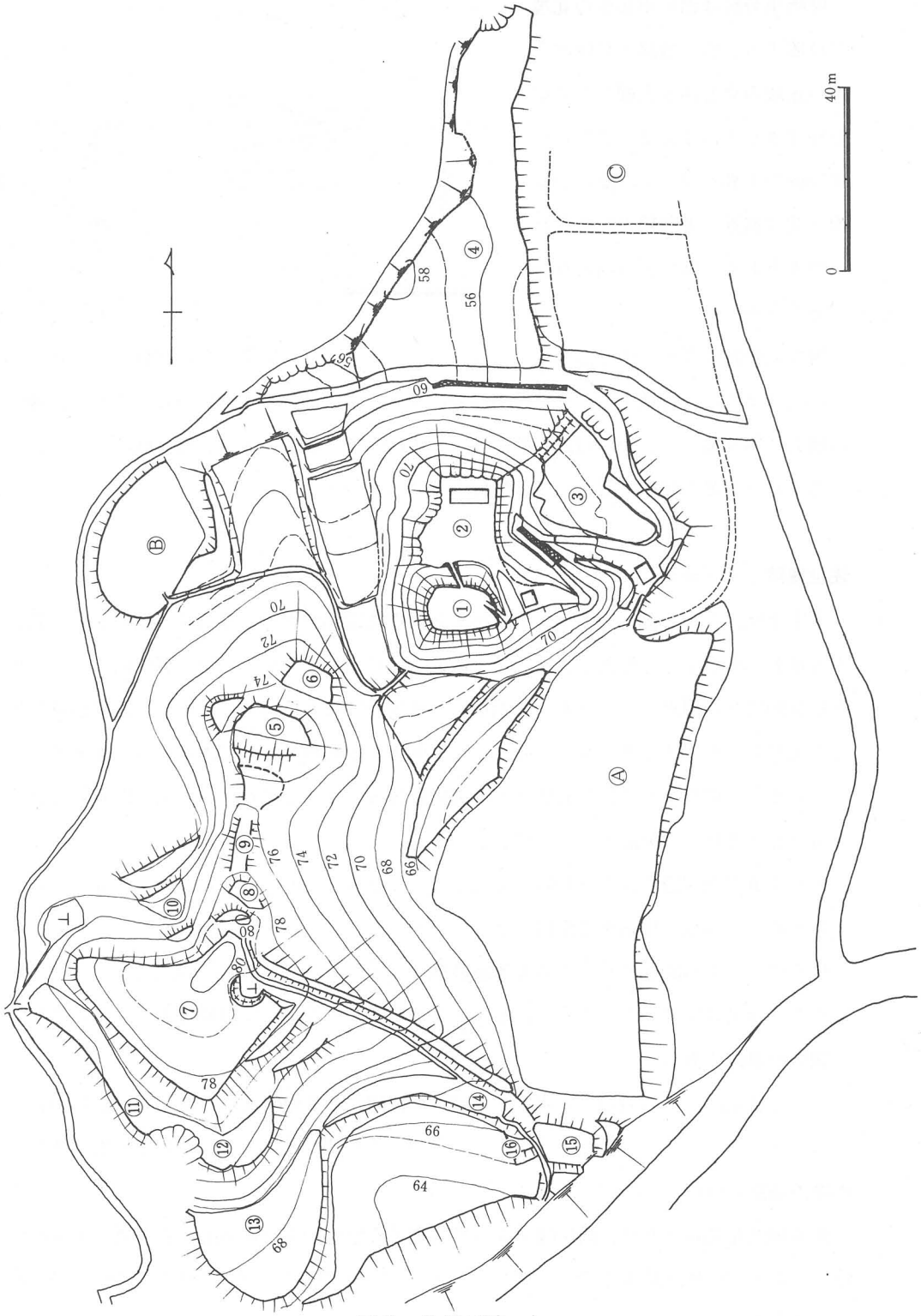


図８　佐世城跡

した南西側最高部を第１郭とし、佐世川に向って下降する斜面に扇形に第２～第６郭を配置している。大手は佐世川堤防から登り、北側の土塁上を屈折しながら主郭に至るものであり、土塁の位置からして下流域である北の方向に備えた構造である。主郭後背の大堀切りはいわゆる〝木戸〟で、旧路はこれを通って佐世郷から北に通じている。

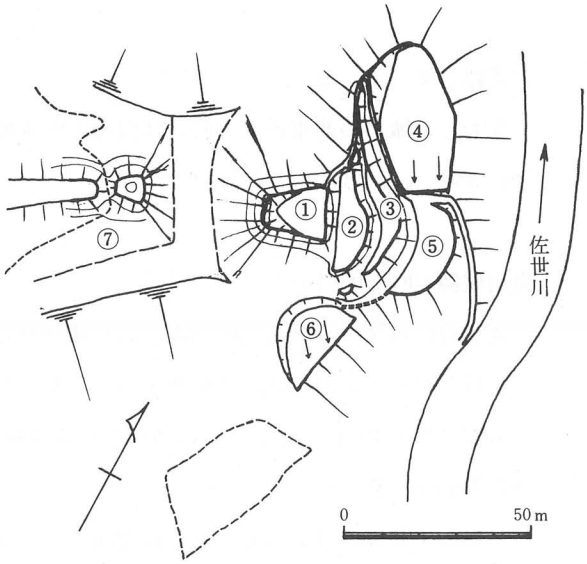


図９　小木戸城跡

このように小木戸城跡は、佐世城を本城とする下口の出張とみることができる。(1988年刊報告書参照)

つくし城跡(上佐世)(図10)

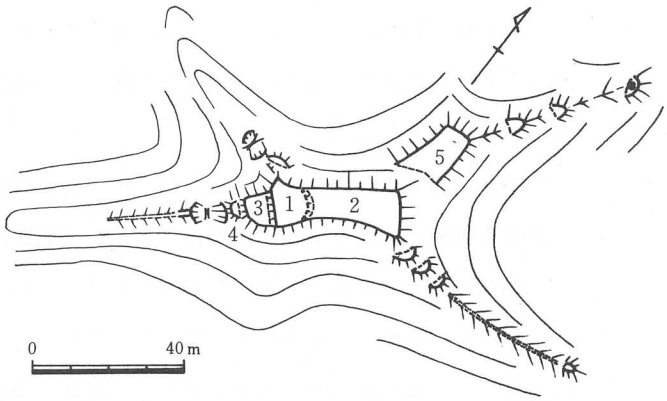


図10　つくし城跡

佐世盆地の南側（表佐世地内）に屹立する山陵に築かれた城跡である。その東裾部の谷間は木次町宇谷地区への旧路が真南へ通っている。小字地名は「尽（つくし）」である。地元の一部ではこの山を俗に〝じゃやま（城山）〟と呼んでいた。標高162m、比高約80mの頂部に縄張りした城跡である。

最頂部10×10mの第１郭から北東へわずかの段落ちで、最も大きい幅７～10m、長さ24mの第２郭へ接続して主郭部を成している。南西へ下って延びる瘠尾根は後背部にあたるもので、第１郭から第３郭と小さな第４郭へ段をなして下り、尾根基部を幅10mの大堀切りで切断される。瘠尾根は屏風状に切り立ってさらに延びる。また第１郭から西へ派生する小尾根も小さな腰曲輪を経て幅５mの堀切りで切断されている。

第２郭の左右の先端から北・東へそれぞれ稜線が下降しており、それにも小さな三角形の郭が２～３段つくられて、下方の旧往還に対している。

簡素な縄張りであるが、山腹はいずれも急であり、要害堅固な室町期の山城といえよう。

登路は表佐世地内から南西に回り込む深い谷筋とみられ、今日では町営危険物処理場へ

の通路となっている。

なおこの城跡の北東正面方向には白神山佐世神社があり、城跡の麓には〝勝負廹〟〝鐘築〟〝垣ノ内〟などの地名が散見される。

阿用城跡（東阿用）（図11）

蓮花寺に隣接する磨石山の山嶺に広く縄張りした大きな山城である。史記・戦記等に多く記述される土豪阿用宗的（桜井宗的）の拠った城として著名である。

城郭は標高309m、比高170mの頂部からの稜線上及び支尾根上約600mにわたって大小各種の郭60余を算える。

山頂の主郭部はほぼ南北に長く約220m、その両端から約30m低くそれぞれ西に派生する支尾根上100～150mに副郭部と張り出し郭部を配置したコ字状に縄張りを行って、西に開く方向が大手筋で、東阿用集落中心部に面している。搦手は2方にあり、1つは南端の堀切りから東の谷間に下ってさらに北へと蓮花寺に辿る路と、西の谷間と麓の外土居へ降るものがあり、主郭部北端から急斜をなす瘠尾根を蓮花寺へ最短距離を下る間道が認められる。

大手は主郭の中央部から副郭部を経て野田奥の谷間へ下り、麓の字天場あたりに至る路で岩魂の重累する間を掘り込んだ路であり、登城正面路としての風格がある。

主郭部についてみると、最頂部の第1郭は70×15～27mのほぼ長方形で削平は粗放であり、中央付近に地形をなぞった小段と低土塁が認められる。この低土塁の近くには、左右に突出する土塁に挟まれて西から登る路の最終点があり、直線をなす西縁はすべて低い土塁となっている。またかって焼米が出土したのもこの土塁に囲まれたあたりであったと聞く。

第1郭から北へ第2郭を経て北端の狭長な第3郭へと下る。第3郭は50×10mのほぼ長方形で、郭端の右側からは急降下して小尾根上を辿り大切通しへ下って対峙する蓮花寺へと間道がある。左側からの瘠尾根を辿ると屹立する巌頭に至り、北西方向の眺望に優れている。また西側には一段下って帯曲輪（4）が細長く付属する。

第1郭中央から西へ斜降する大きい土塁があり、中間を切って虎口とし大手路に対している。この土塁の後背に第5～第7郭が隠れるように段をなす。2方を土塁で囲む第8郭は大手路の終点に対するものであり、路は土塁端を迂回させ、第10・第9郭を経て主郭へと導いている。第11～第15郭は南へさらに下る小郭で、南の堀切り部及び副郭群からの経路にあたる。これらの郭は削平が粗放で、特に西縁部は高く土塁状に削り残して縁としている。

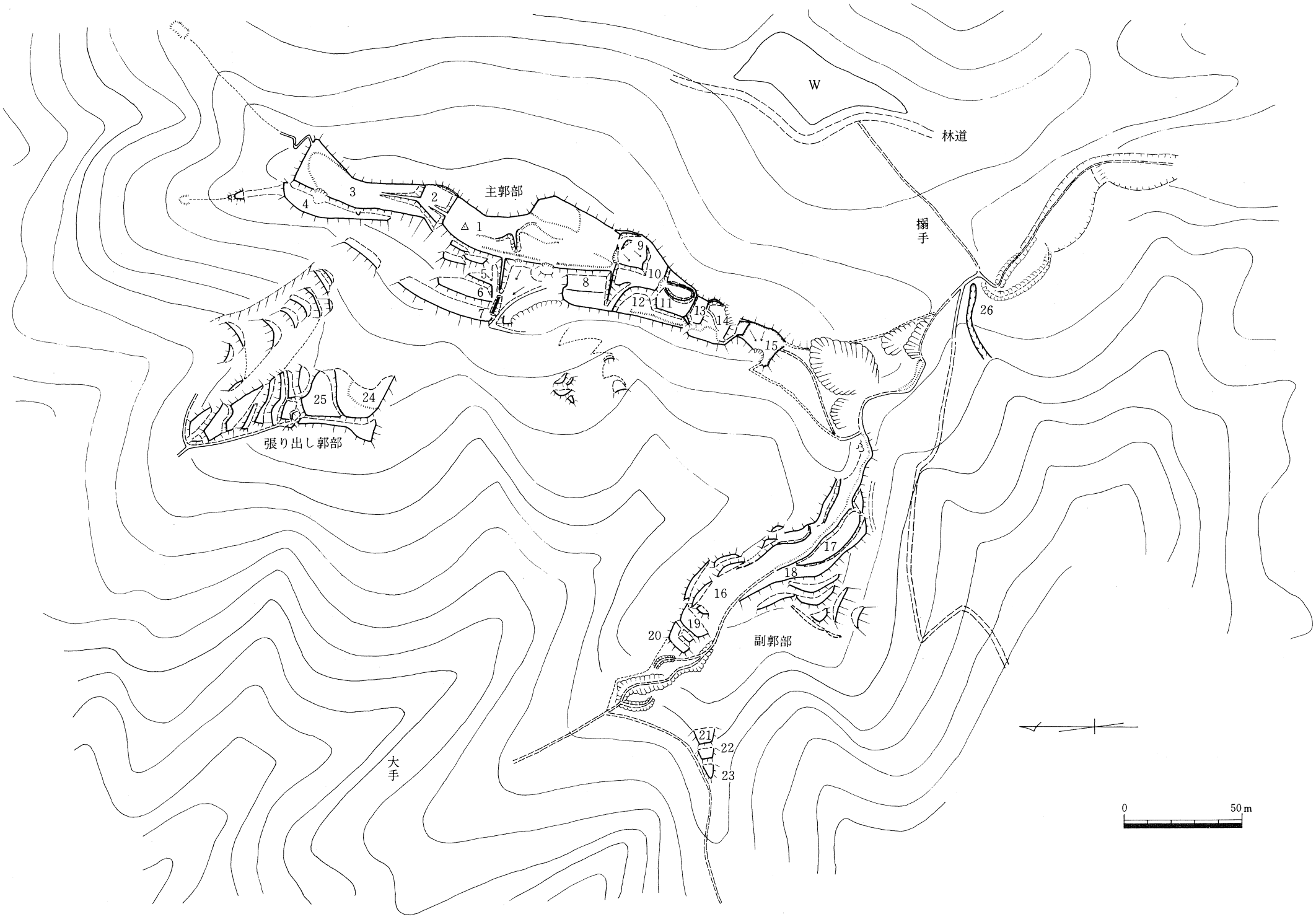

W
林道
搦手
主郭部
△1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
26
25
24
張り出し郭部
16
17
18
19
20
副郭部
21
22
23
大手
0
50m

図11　阿用城跡

副郭群は主郭部南端の第15郭から約20m下った支尾根上を中心とするもので、北西にわずかに下る長さ70m、幅5～10mのフラットな自然面の南縁に低い土塁をもつ第16郭を中心としている。この南斜面には第17・18郭の帯曲輪を副え、さらに下方へ7段の小さな曲輪を備える。北東斜面には極く狭い帯曲輪が7面沿っている。尖った北端には大手路に対する第19・20郭など4面の中小郭が具備されている。またさらに西へ下る瘠尾根には約30m下ってから第21～第23の小郭が設けてある。なおこの先の尾根上には現在送電鉄塔が建てられている。

この副郭群から北へ、大手筋である野田奥の谷を隔てて、支尾根に張出し郭群がある。第1郭の下方約80mの第24・25郭から狭い階段状に11郭を算えて先端に至る。さらにこの北側の谷頭にも半月状の小郭11面が断続しながら下降して設けられている。なお尾根端には送電鉄塔が建てられている。

主郭群の南端で副郭群への接続部分は大きく山崩れしており、構造は不明であるが南東方向へ下る稜線上に退路が下降し、鞍部は堀切りとに土橋がさらに次の山陵上へと続く。この堀切りから西の谷へ幅約2m、長さ約20mの鋭い竪堀(26)となって下降している。またこの堀切りから東へ浅い谷間を約80m下ると大きな池塘の林道に至り、これは蓮花寺の奥に相当する。

阿用城跡はこのように広域ではあるが、郭面の削平は均平ではなく自然地形のままとみられるか所も少なくない。郭の斜面には竪堀りは全く見当らず、土塁も明確なプランは主郭の一部のみで、他は散漫でありしかも細く低い。郭の数は多いが、縄張りとしてはややまとまりが良くないと思われる。立地も高山の山頂を占地したものであり、南北朝～室町期の山城の好例といえよう。

この城は江戸時代の軍記物によると、永正15年(1519) 9月尼子の大軍によってついに落城したとあり、主郭中心部付近で焼米の出土をみるとのこともこれの証左といえよう。なおこの時、尼子勢は本拠として麓に向城を築き攻めたが、大将尼子政久は宗的の弓によって落命したとされている。この向城は、北西麓に所在する次にあげる福富城跡であるという説がある。

註　阿用城の落城については、雲陽軍実記では永正5年（1508）といい、陰徳太平記では永正15年(1519)とする。また佐々木氏系図では尼子政久について「永正十年（1513）癸酉九月六日於雲州阿与城当流失卒歳井介（下略)」と記す。

福富城跡（ふくとみ）（東阿用）（図12）

阿用城跡から北西約800mの麓、福富集落に位置する丘城である。

頂部は標高114m、比高約30mで、全長270mほどの丘陵である。小字地名は「要害」「福留」であるが、集落名によって「福富城跡」とよぶ。

ほぼ北から南への丘陵を途中2か所の堀切りによって郭群を三分して構成している。

南端は自然丘陵を残し、東丘腹に広い郭をつくり、西丘腹は急斜面である。幅広い堀切

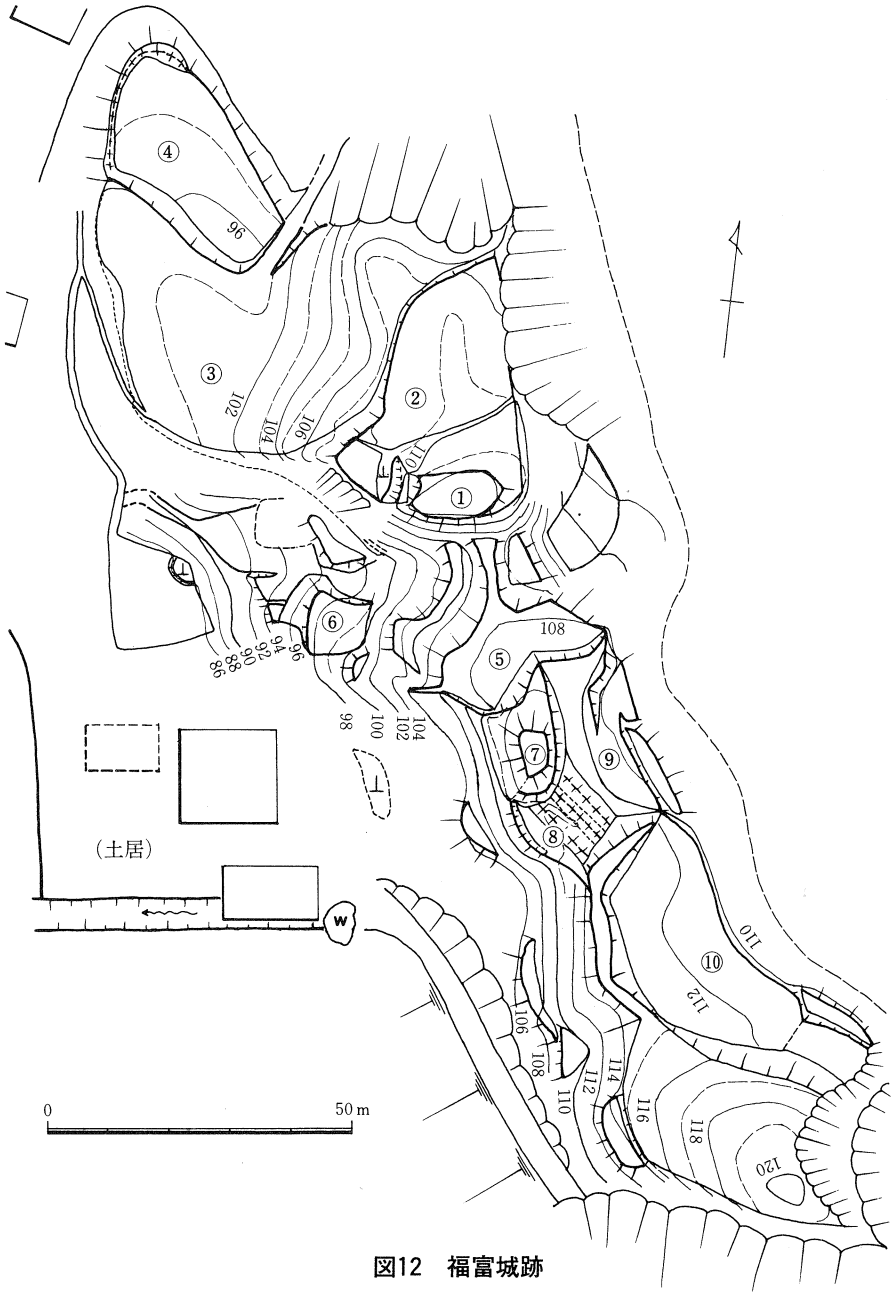


図12　福富城跡

りは底に３列の畦堀りをつくり阻塞としている。

城域中央部には小さな方形台状郭を高く削り出して櫓台かと思われる。その北下にはやや広い郭をおき、北側を深く堀切りで切断、中央の土橋で北の郭群へ接続している。南郭群は堀切りに面した南が最も高く、北へ下降しながら最も広い郭を重ねて北端に至る。合計26の曲輪が算えられる。

搦手は東裾にあたる「土居」に想定され、土橋のある堀切り部へと路が登る。

この城跡についての記述伝承はほとんど見当らないが、尼子政久が永正年中阿用城政略に際して築いた向城とする一説（皇国地誌）もある。縄張りからみて戦国期の様相をよく遺している。

（1988年刊報告書参照）

駒谷砦跡（下阿用）（図13）

大字岡村との境に近く、独立する山陵の頂部に造られた砦跡。

頂部は標高145m、比高70mで、これから派生する北・北東・西及び南西の支尾根は、それぞれその基部で堀切りとして頂部を独立させている。北に向っては堀切りまで２段の郭を副え、北東へは傾斜するわずかな曲輪が沿っている。頂部はほとんど自然地形のままで、外周を削って縁としたもので、頂部からは北西～北東方向（大東町並み）の展望に優れている。城域は東西70m、南北120mほどの範囲である。

東麓は阿用盆地の下口の括れ部にあたり、阿用川が北へ流れている。

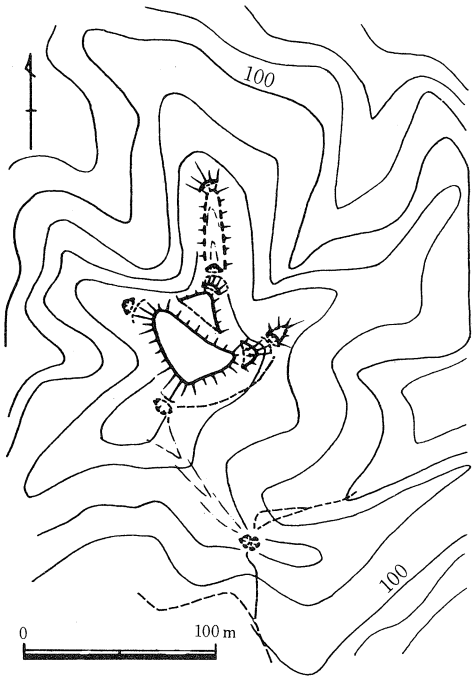


図13　駒谷砦跡

根小屋の位置は北西下方谷間の字「杉谷」であるのか、南に下った大字岡村字「山根」であるのか判断し難い。砦跡の小字地名は「杉谷」「駒谷（段？）」で北東部には「大平寺」の名称がある。

高所を占有し、北に対する備えとみれば、磨石山阿用城の物見砦かとも思われる。

白神陣跡（下佐世）（図14）

佐世小学校の東、佐世川を挟んで尖出する丘陵端で、佐世神社参道の上り口にあたる丘陵である。明瞭な削平段は３面のみで、最頂面には佐世神社仮宮？がおかれ、第２面は神社参道敷となっている。南は丘陵の括れ部が鞍部となっているが、かつては堀切りであっ

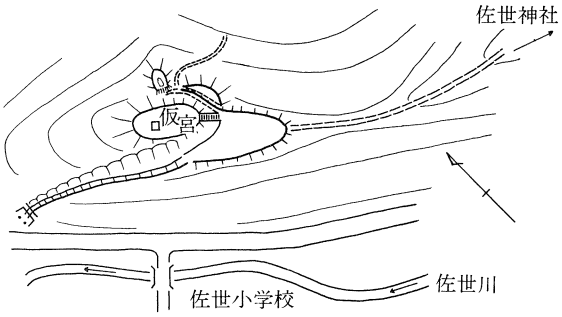


図14　白神陣跡

たのだろうか。

雲陽誌は白神八幡宮の項で「…小山あり、此山は毛利元就当国発向の時しはらく陣営の跡なりといひつたふ。」とある。佐世城は直接には展望できない。西に江野木八幡、南西にはつくし城跡が全容眺望できる場所である。陣跡か否かはさらに後考にまつものである。

4．寺社跡と古墓等

寺院跡を示すと思われる小字地名は随所にみられ、特に下佐世地内には濃密である。しかし地点や遺構の明確に判るところはわずかであり、また残存状況もよくない場合がある。

また寺院跡或はそれと思われる地名のところには概して付近に古墓もあり、ときには明らかに現行の墓地等へ移されたものもある。特に西阿用陰地の字石久呂では、中世戦乱の伝承とともに多数の五輪塔片が散乱している。また大型五輪塔は佐世伊豆守のものと伝える２基が著名である。

佐世・阿用地区とともに他地区に比べて宝篋印塔は数が少なかった。

石久呂古墓群（西阿用）（図15）

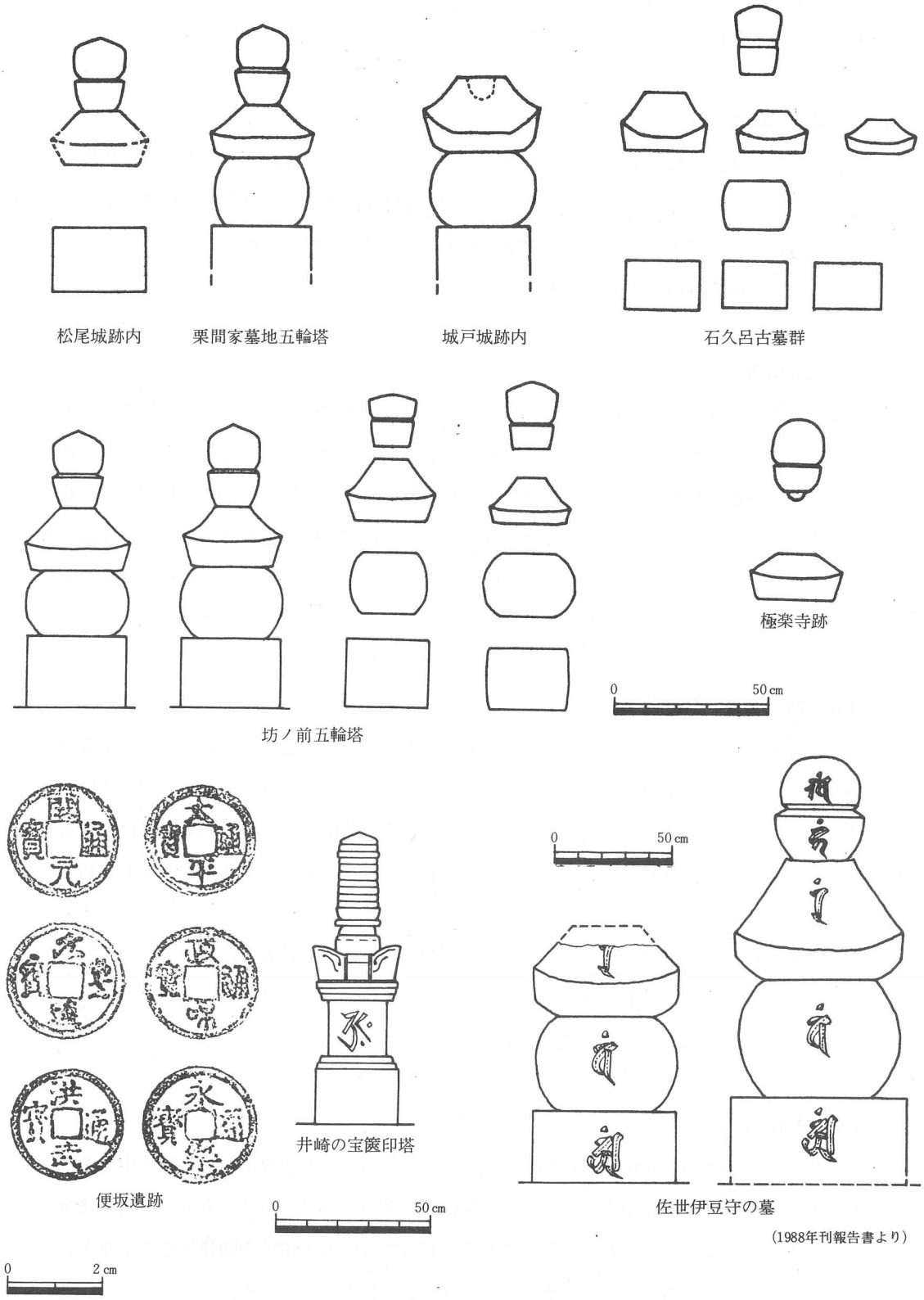
小字石久呂にある古墓で、宅地によって前端部は削られている。削り残した小丘陵端部には荒神の碑を祀り、その裾一面に五輪塔片が半ば埋もれて散在する。また宝篋印塔片もわずかに混在する。いずれもキマチ石製の中～小形品である。これらのうち反りのある薄造りの笠や、宝珠の形態が簡略化された終末期のものがみられることから、17世紀に入る頃のものもあるようだ。伝承としては尼子時代の合戦の場であったとも伝えている。

栗間家墓地五輪塔（西阿用）（図15）

熊野権現元宮地に近い、高さ約2.5mの円形小丘上の現行墓地にあるもので、１基のみたてられているが、多くは山積みして一隅にまとめられている。図示したのは中形のどっしりした造りで、宝珠も笠もほぼ整形であり古風を示している。石材もキマチ石よりやや硬質のものである。

松尾城跡殿様墓（西阿用）（図15）

松尾城跡搦手の山腹に１基ある中形の五輪塔である。水輪を欠くが、笠は厚く直線的で



(1988年刊報告書より)

図15　石塔・古銭

あり、宝珠も整形で古風とみられる優品でキマチ石を用いている。

城戸城跡五輪塔(西阿用)(図15)

城戸城跡北端の曲輪にあり、竹林の中で半ば埋没しかけている石塔で、これが1基だけある。やや大ぶりのキマチ石の塔であるが、宝珠は付近に埋没しているのか見当らなかった。笠は軒反りが極端であり、従って棟線も強く反る新しい様式である。17世紀に入るものであろう。城とは時代がすこしずれるようだ。

坊ノ前五輪塔(大ケ谷)

東に面した丘腹に削平段があり、五輪塔片が埋没しているとのことである。その一部を削平して現在堂が建てられている。かつてこの北隣りの畑地あたりに寺があったともいわれているが明確ではない。堂建立の際出土した五輪塔片は堂の庭にまとめられている。石材はすべてキマチ石である。宝珠は整形のものから円筒状の簡略化したものまで、笠は軒反りが少なく厚造りのものから薄造りで反るものまで、新旧の様式がともに見られる。古墓の年代幅が広いとみるべきであろう。

極楽寺跡と古墓(上佐世)(図15)

上佐世地区の西端で、木次町山方との境界にあたる丘陵の先端部に位置し、小字地名は極楽寺。盛り上った丘頂の20×20mほどの削平地が寺跡で、現在は小堂がある。この境内木次町に属する部位に一段高く現行の墓地がある。この墓地内に〝家老の墓〟と伝える五輪塔片がある。1基分ではなく、古態の宝珠や新しい様式とされる薄造りの笠等が認められる。

またそれらとともに石地蔵1基もあり、その碑文は次のようであった。

「空心信士　享保五子七月十五日」
　廻国　丹州天田郡曽我井村」

井崎の宝篋印塔(下佐世)(図15)

下佐世の北端近い字井崎に位置し、西に張り出す丘陵の南側中腹部の墓地群の中にある。高さ95cm、キマチ石製の中形品である。塔身四面に梵字で四仏を彫り、直立気味の隅飾突起には忍冬文を施しているが、省階式である。相輪では伏輪と請花を同様につくるなど、中世後～末期の供養塔であろう。地元では佐世為徳の墓と伝えている。

伝佐世伊豆守五輪塔

下佐世の狩山八幡宮の脇、字養安寺に祀られている大形の五輪塔で2基並んでいる。石材はやや軟質の凝灰岩で、横に層理があり剝離が認められる。地輪から空輪まで五輪すべての正面に梵字を彫る整つたものである。笠部の丈は高いが軒反りは強く、手法としては新しいようである。また一隅には小形の五輪塔片や省階式で新しい様式の宝篋印塔片も集めてある。

(1988年刊報告書参照)

禅僧院跡(川井)

大きく三面を高い丘陵に囲まれた中央の西へ張り出す小丘状台地に位置する。寺域はおよそ40×100mとみられ、現在畑地及び竹林となっている。削平地は3段ほどであるようだ。後背丘腹には小さな墓域があり、無縫塔と宝篋印塔2基が建っている。いずれもキマチ石製。無縫塔の塔身には正面中央に直径5cmほどの小孔を穿っている。宝篋印塔は塔身を欠くもの、笠だけを二重に重ね合わせたものなどで完形ではない。かなり風化しており細部は不明である。

ここから約100mの丘端頂部には現在天満宮が祀られている。その近く六社碑が建っているが、その台石は寺院の礎石の転用かとも思われる。

この地点は蓮花寺から後背山陵を越えた麓に相当する。丘裾には「土井」の地名もみられる。

月根尾社跡(下佐世)

中筋集落の奥まるところ、南へ低く張り出す小丘陵の先端部が括れて先端で盛り上る地形上にあり、集落からは伏鉢状に見えるところである。

かつては土産神であったこの月根尾神社は、今は狩山八幡宮に合祀されている。

頂部は30×20mほどのほぼ円形削平地で「月根尾大明神」の碑が建てられている。雲陽誌はこれを風土記所載の佐世社とし、論のある社の一つである。

江野木八幡宮跡(上佐世)

佐世中心部へ向って西から張り出す低丘陵の先端南側にあり、境内は幅約40mもある。正面は南に向いている。後背丘陵は本来広い削平地であったようだが現在は大部分が育苗センター敷地となっている。砦跡であった可能性もある。雲陽誌に宇佐八幡宮と記しているもので、今は佐世神社に合祀されている。

阿用神社脇古墓

阿用神社の北隣接地には2段にわたって小形の五輪塔を主とする古墓がある。大部分は半ば埋れている。宝珠の形態からみると古態のほかに円筒形に便化したものもあり、種々の形式のものが混在している。また付近の耕地等から出土した石塔片をここに納めたこともあるとのことで、混在しているようだ。

この場所について地元では〝土屋式部ゆかりの土地〟と伝えており、南北朝期蓮花寺城に立て籠った土屋氏一族に関するところとも思われる。

5．製鉄遺跡・その他

A．製鉄遺跡

陰地ケ谷たたら跡（西阿用）

西阿用から久野越路の中ほど、深い谷間の南側字陰地ケ谷の入口部付近で、わずかばかり台状地形となる水田の山寄り部分で、水田の畦に約35mにわたり鉄滓の散布するところがある。この田区が製鉄跡と推定される。細多孔質の鉄滓で、若干赤錆も発生しているが表面は飴状に流動性を示している。大規模な製鉄ではなく、やや効率の低いものであったと思われる。

峯鈩原たたら跡（西阿用）

峯集落から南西へ谷間の最も奥まるところ、谷が左右に分かれるあたりに小さく突出する地形の東側中腹部で、現在は帯状の小さい水田が段をなしている。この中腹の水田の前畦面に約20mにわたって鉄滓が散布している。鉄滓は流動性を示すほとんど気泡の入らないものと、やや流動性はあるが大気孔があるものの二様があり、錆の発生は少ない。炉壁材粘土にスサ等の混入は認められない。地形や鉄滓からみて効率の良い小規模なたたらであったと思われる。なお小字地名は「上ミ鈩原」とあり、付近にはまだ数か所の炉床があるとも思われる。

笹屋たたら跡（東阿用）

西に傾斜する広い山麓台地でわずかに微高台状をなし、前方を谷川が迂回して流下している。小字地名笹屋で現在宅地（浦辺氏）前方の畑及び谷川沿い道路法面等に鉄滓が若干散布する。かってこのあたりで多量の鉄滓を掘り出し出荷したとのこと。宅地後背部には金屋子神の石碑を祀り、鉄滓塊を供献している。鉄滓は比重感のある流動性のもので、操業効率が窺われる。炉床は現在の宅地あたりと思われるが規模等は不明である。

大内谷たたら跡(川井)

県道大東仁多線の集落から川井峠へ向って大内谷を上り、道路が大きく迂回するあたりの中ほどで北に傾斜して突出する地形の先端にあり、小字地名は「鈩原」である。圃場整備で整えられた水田の下端部に14×５ｍで三角形をなす部分が残されている。この突端部に金屋子神石碑が建っており、付近の畦畔には鉄滓が多量に散布している。炉床位置は明らかではないが、現在の最下段の水田あたりかと思われる。圃場整備工事によって消滅しているのかもしれない。鉄滓は中小の気孔が多く粗鬆であり、また若干の錆も認められる。かなり規模の大きい近世のたたら跡と思われる。

扇谷たたら跡(下阿用)

蓮花寺山の北西麓にあり、谷口部の扇状をなす台状地形のところである。ここは蓮花寺へ上る男坂とよぶ旧路の入口部でもある。鉄滓は谷川の東側山麓台地あたりに散乱しており、山裾部には削平段があるところが炉床であろうか。とするとかなりの規模のたたら跡といえよう。鉄滓は大塊もあり、多孔質や、やや流動性を示している。

西側に低く突出する丘陵上には７×10ｍほどの境内に立派な金屋子神の祠が祀られている。手洗鉢には「奉献　安政六未十二月、古山○○○　荒木○○○」の寄進銘が判読される。

Ｂ．その他の遺跡

便坂遺跡(東阿用)

東阿用の南端近く、磨石山阿用城跡の西麓台地上にあり、現況は緩斜面の畑である。平成元年５月耕作中石蓋の下から多量の埋納銭貨が発見された。

発掘調査の結果、約20×30cm、深さ50cmの小坑に、約100枚又は200枚を単位とするサシに通して連とした中世銅貨を埋納備蓄したものであった。銭種や総数等は未整理であるが、約3,000枚はある。永楽通宝・洪武通宝等中国からの渡来銭で、江戸時代の国内銭の寛永通宝は全く見当らないことから、15世紀初頭頃の埋納とみられる。

丁度阿用城の麓館が想像される場所でもあり、阿用城落城(16世紀前半)とも符号することから、この戦火によって被災した住居近くの備蓄銭かとも想像される。

狩山経塚(下佐世)

狩山八幡宮の北に張り出す丘陵の頂部にあった２基の経塚で、昭和46年町水道貯水池建設工事によって発見、発掘調査後消滅した。

円墳状をなす大小２基の経塚は接続しており、大は8.5×7.5m、高さ1.5m、小は5.0 ×

5.0m、高さ1.3m、ともに地山を円形台状に削り整えたもの。大塚は頂部に高さ55cmの須恵質大壺を置いて盛土し、その上に約2m範囲に角礫を敷き詰めていた。小塚は盗掘を受けたものであろうか、備前焼の大壺の底部破片のみが出土した。なお大塚の外周に五輪塔が建っていた。

須恵質大壺の中には和鏡2面と古銭が入っていた。壺は須恵質で格子叩目であり、和鏡は洲浜双鳥鏡と流水散花双鳥鏡である。前者の鏡は中縁細線単圏で2方に洲浜とその間に飛鳥を浅く表出し、中心には花形低座鈕をおくもので、平安後期の作風である。後者は腐蝕が著しく詳細は不明である。

なお大塚外周に配置されていた五輪塔と経塚の時期とは異なるものかとも思われる。

善明寺後山遺跡(東阿用)

善明寺後背部を囲む丘陵の尾根頂点にあり、直径約2m、高さ30cm位の山石の集積したもの。善明寺に関与する一石経塚と思われる。江戸時代初期であろうか。

小　字　地　名　一　覧　表

佐　世　地　区

大字西阿用

地図番号	小　字　地　名
1	入道、入道迫、清水、泉、木次迫、堂免、大以後、空上、下垣内、寺田、対重、田中、大前、上垣内、家ノ前、鍛治屋、焼見堂、障り石仏
2	焼見堂、呑水、師弟、田中、障り、障り西平下モ
3	焼見堂、障り、障り東平、荒木田、大引、奥障り西南両平、松ノ木、木路ノ尾
4	門分、三通、廣屋、灰ケ迫、横山
5	細々、三ケ瀬、三ケ瀬越、崎田、崎田東平、崎田西平、焼山
6	若木迫、樋尻、大見堂、山ノ平、坂本、坪田渡瀬、瀧戸
7	渡瀬、堂田、三ケ瀬越、若山、酒代、朱竹、池ノ尻、西ノ垣内、大日、神田、廻り迫、百堀、奥谷、小迫、登立、ウネ畑
8	見ノ口、墓ノ上ミ、叶迫、深坪、免ノ口、正田、鈩原、下モ鈩原
9	大見堂、坪田、樋尻、大以後、渡瀬、中蔵、横畑、見ノ口、別所、場ケ迫、吉田
10	呑水、拾貫、瀧、叶迫、御崎広、城戸、梅木谷、堂山
11	折紙田、新宅、木路ノ尾、小森、綿尾、金穴、正場、鉄穴、木路ノ尾南平上ミ、(仝)中カ、(仝)下モ、松田、正場迫、堀越、正場頭
12	堀越、竹ノ下、正場、十王、杓子田
13	堀越、石久呂、清南、天場、薬師、稲垣、一ノ上、宮田、宮畑、宮内、代ノ田、段畑、飯米場、飯田、烏場、林ケ谷、垣内
14	飯田、小谷西平、小谷
15	小谷、林ケ谷、小谷東平
16	田中、紙屋、宮畑、中屋敷、浅川、鏡、垣内ケ迫、垣内、カナケ迫、梨子ノ木谷、井堀谷
17	中原、布施、橋詰、石田、井手床、森本、大工屋敷、竹ノ内、宮田
18	大工屋敷、坂中、土居、二反引、槙原、大見堂、横枕、嵯峨里、突貫、滝戸、金穴
19	槙原、土居、紙屋、松尾
20	亀谷、下モ亀谷頭、下モ亀谷南平、寺後、北流田、猪堀
21	大歳、松尾、梶屋、朝川、名子田、家ノ迫
22	平迫、家ノ迫、名子田、鉄穴、さんしゅうノ元、樋尻、樋尻木、清水、三久保田、穴畑、深田
23	茅ノ谷、松茸山、上ミ鈩原南平、苺藪、鈩原、上ミ鈩原、小堤、古堤、上ミ亀谷
24	人肉田、人肉、深田、何連人肉谷
25	名子田、後峰、向田平、樋尻木、樋尻、水ケ垰、深田、蛇餌食
26	杭田尻、外垣、梶屋、城山、京墓、迫田、朝川、向峯、峯、名子田、何連、地主、菅田、水ケ垰、上峰、後峰
27	土栗、渉り、杭田尻、場谷、場谷尻、門栗毛、弓立、西光寺、大歳、湯ノ上、木ノ下
28	湯ノ上、迫、下小屋、上小屋、松ノ前、高畦、石堀、鏡、石畑、鉄穴、鉄穴堀、向堀、早稲田
29	石堀、猪垰、石畑、石畑ケ、鉄蛇(砲)ケ垰、戸井崎、久野越谷北平
30	鏡、四歩ケ平、戸井ケ谷、井堀谷
31	滝戸、久野越谷南平、畑ケ谷、中田
32	中田、畑ケ谷、大井崎、久野越谷北平、草太郎地
33	草太郎地、奥草太郎地谷、十谷ケ丸
34	久野越谷北平、柳ケ谷、吉ケ谷、鈴ケ谷、草太郎地、東平垣
35	畑ケ谷、十万谷、仲田、猪谷、陰地ケ谷、鈴ケ谷、柳ケ谷、柳谷、久野越谷南平、東平垣、□□

大字大ケ谷

1	湯田、イカキ、中屋敷、上屋敷、寺ノ前、家ノ前、家ノ上、奥畑、高畦、島手迫
2	島手迫、山本、一ノ谷、山崎、祝ケ迫、大谷
3	盗谷、扇谷、横畑ケ、坂口、前屋敷、紺屋、山ノ神
4	長尾、大谷川原、下モ藤、藤ケ迫、香ノ木、香ノ木畦、畑ほこ、岩穴口、古川、石平
5	真ノ谷、新田川平、つづら谷、大平
6	下川原、上川原、ミシメ谷、清水尻、森脇、柿ノ木谷
7	榎谷、小迫、地蔵堀、竹ケ鼻
8	高平、若宮谷、吉ケ迫、前田、仲田、大坪、大坪家ノ脇、柿ノ木谷、瀧ケ迫
9	高尾南迫、高尾、鍋迫、日焼迫、カガラ、カガラ中山、カガラ岩棚
10	鈴ケ迫谷、神ノ木、崎紺屋、紺屋畑、大上戸、畑ほと畦
11	東谷、東坊、前田、坊ノ前、南代ノ田、神ノ木、大前、小田代ノ田、大岩畑、段畑、新屋、稗迫
12	家ノ迫、長迫、隠居、坊ノ前、寺畑、高森
13	宮ノ向、竹崎、畑ケ迫、岩黒
14	高森、小田、下小田、坂田、下モ田、馬草、中畦、宮脇、流田、桑垣、桑垣畦、内ケ坪、宮ノ向、屋敷、屋敷家ノ上、畑ケ迫
15	高田、道ケ迫、下モ田、御堂、神田
16	上ケ市、細田、下モ前、御堂、新山屋、馬草、木伐免
17	御崎谷、庄ノ田、細田、二子田
18	深田、大月、上ケ市
19	木伐免、木伐免谷奥、鋳物屋、夫婦岩
20	夫婦岩、夫婦岩家ノ前、半田
21	中畦、中畦家ノ上、吉田、木伐免、木伐免狐平、夫婦岩、半田、乗越、井手ノ上、夫婦岩家ノ前
22	宮脇、代官家、宮ノ前、角ケ市、横枕、岩黒、谷口屋、七日□田

大字下佐世

1	植木ケ段、坂口、山根、大井手、竹平、西大畑ケ
2	竹平、岡柳、迫畑、浄土、浄土原、細迫、天ケ谷
3	竹平、壱丁田、古市、蔵前、古市川端、浄土原、城山下タ、城山、寺ノ上、古屋、中村、城正庵
4	山小屋、後古屋、後古屋迫
5	後古屋、城正庵
6	中村、中村前、段畑、古門、西安寺、西安寺奥
7	中村、古門、六反田
8	六反田、西光寺、井田、大ノ田
9	西光寺、家之奥、吉ケ迫、小木戸、城山、井ウガ
10	城山下タ、小木戸、大黒輪、砂子田、小久保田、法司和田
11	神田、神田東ノ迫、神田南ノ迫、千代堀、折阪、梨子ノ木田吉田
12	壱反田、深田、深田畦、備後屋、神田
13	番正田、塩田、大黒輪、来西寺、川西、森脇、観音田
14	砂田、下り、谷、堂堀、五反田、コフロ、福田、家頭
15	漆迫、高畦、大ノ田、堤迫、堤迫東平
16	堤迫東平、堤迫、堤迫西平、笹畑
17	高畦、笹畑、稲田、権見谷
18	石真、真野ケ平、養梨子、積谷原
19	養梨子、奥田、大ツ畦、日焼迫、真野ケ平、芹谷
20	芹谷、高畦、堀之内、堀之内向、鳥谷
21	福楽田、桂木、五反田
22	青木ケ下、平山、平ノ前、平山道ノ下、立原境
23	川平、了玄寺、大以後、川原、砂田、鋳物屋、上へ山、山本
24	井崎、井手ノ上、八月田、畑ケ中、大前、中屋敷、乗越
25	寺ノ上、井手ノ上、寺畑、清水、寺田、平榎
26	八月田、戸井ノ上、七尻、清水、志げ堀、神田、上垣、賀恵地、欠田、東分、初出
27	初出、松ケ迫、山見
28	東分、北屋敷、大西、新宅、大下、澄水、田中
29	井戸谷、井戸谷西平、井戸谷東平
30	井戸谷、中屋、養安寺、宮ノ脇、狩山、宮ノ上、宮ノ奥、堤谷、立割、日焼迫
31	宮ノ奥、堤ノ上、堤ノ上奥西、堤ノ上奥北、堤谷、堤平、堤谷奥
32	堤谷、宮ノ奥、宮ノ谷、立割、柿ノ木迫、柿ノ木迫畦
33	日焼迫、宮ノ前、鶴ケ崎、竹ノ下、沢田、沢田道ノ下、障子田潤谷
34	障子田、新屋敷、大向家ノ上、大向、潤谷、仁井ヤ、稗迫、大峠、二反田
35	大峠、大根畑、半田、小(窠)原
36	吉田、大成、中屋堀、吉田北平
37	上石、吉田南平、吉田、三神田、瀧高
38	三神田、吉田、後田、後山
39	向前、潤谷家ノ上、潤谷ノ奥、宮ノ奥、小迫、潤谷、潤谷井戸ノ上、藪、藪ノ上、熊ノ田
40	木戸向、十二合免、矢内、三反田、杉谷
41	杉谷、真野平、大田、大田入口、大田道挟、大田尻、木ノ下
42	屋敷前、屋敷、大田、ヤシキ、杉谷、大ハゲ、岩ケ谷、大ノ

	田
43	才免田、杉谷、杉谷奥
44	杉谷入口、三反田、松ノ木、代次、大畑、五反田、川端
45	祝ケ崎、白神、白神谷、油免
46	祝ケ崎、宮ノ前、古前、杉ノ迫
47	神谷、神谷奥、中ノ迫、杉谷□、神ヤ
48	宮ノ谷、神谷、神谷奥、白神上地

大字上佐世

1	野田、今村、西ノ迫尻、稲村、森坂、古屋敷、芹谷、芹田
2	田中、田中上、田中屋敷、屋敷余、大前、家ノ下、半戸屋敷上空ソ子
3	半戸、屋敷余、堂ノ前、屋敷余堂上、堂ノ下、前田、畑尻平田、畑尻、大前、清水迫、鴉ケ迫
4	才ケ市、道楽畦、細々、折渡
5	折渡リ、才ノ峠、細々
6	御崎迫、道楽、横平、小坂、天場、柿田、森畑、半戸、深坪前田、屋敷余、中向、才ケ市
7	時見堂、極楽、極楽寺、寺ケ市、川端、土居、出井、家ノ下屋敷余家ノ下、屋敷、三反田
8	三反田、寺ケ市、古屋、古屋敷余、古屋屋敷余、古屋家ノ前屋敷余リ、寺ケ市上、古屋上、欠田
9	深坪、五天王、登立、屋敷余、梅ノ木、家ノ上、屋敷余、山中、欠田道ノ上
10	登立、欠田道ノ上、子々早生、最好、屋敷余、欠田
11	屋敷余、最好、山中、山中屋敷余、田迫、欠田、下ノ坪
12	渡沢、神田、欠田、欠田道ノ上、尻無
13	神田、神田道ノ上、屋敷余、尻無上、山中、欠田道ノ上
14	尻無、壱貫田、家敷、吉田、吉田々迫
15	尻無、壱貫田、吉田、家ノ下、小迫、原畑ケ
16	尻無、竹中、角畑、後古屋、油船、長畑油船、油舟家ノ上、(荒田)
17	神田、荒田神田、神田家ノ後、毛堂免、屋敷余家ノ下（宮ノ前)、家ノ後垰
18	神田、毛堂免、下モ坪、家ノ下、家ノ後、屋敷余家ノ下、屋敷余、勝田迫、神田ケ市
19	奥ノ迫、仲山、細木腰林、井手内、坪ノ内
20	机田、綿打、坪ノ内、田尻、西ノ迫尻、西ノ迫
21	坪ノ内、酒屋、坪ノ内酒屋、下酒屋、酒屋前、堀ノ内坪ノ内井尻、天場尻
22	坪ノ内天場、天場尻、天場、坪ノ内、酒屋尻
23	サラレ、代ノ田、日焼田、前田、上ノ団、家ノ上、屋敷余、地王堂、家ノ東、杉垰、杉垰家ノ東、堂ノ前、酒屋上屋敷余
24	酒屋家ノ上、家ノ前、酒屋畦
25	堂免、サラレ、鉄穴地、家ノ上、堂田
26	天場、鉄穴地、道楽、笹ケ谷、笹ケ谷道楽
27	八郷山
27	堂田、大成、笹ケ谷、次郎迫
28	亀尻、八ケ崎、家ノ下、船木、家ノ上
29	奈良ノ木、素良木、戸井元、コヱタ、川原、宮ノ下、愛宕後宮ノ上、宮ノ前、観音寺、道ノ下、家ノ上、歌ケ市
30	カワラケ田、堂ノ前川挟、堂ノ前、神田屋敷、伯耆迫、神田屋敷、大畑ケ、大畑道上、神田屋敷余、屋敷余、道ノ下、大畑、大畑屋敷、神田大畑、屋敷、戸々、井戸上、飛尾畦、上ケ市
31	堂ノ前、深田、道ノ上、花ノ木、花ノ木浄土原、大畑道下、浄土原、伯耆迫、家ノ上
32	浄土原、恵比須田、四斗田
33	後田、口伝、口伝後
34	三ツ子迫、後田、半田
35	狐堀、沢ケ谷、後田、鳴戸山、堂ノ前、後田三ツ子迫
36	戸井元、家ノ前、前田、弥吉、飛尾
37	岩屋入口、亀尻、水口、東、東前道ノ下、東前、東向
38	東、菅代、東奥、小丸子、仲ノ谷、今水
39	畳岩、郷谷、梶田、弥吉堀
40	川堀、家ノ前、家ノ上、与市垣、畔高、狐林、味僧田、郷谷
41	高尾
42	郷谷尻、郷谷、道ノ下、槙林、畑ケ田、中楽、高畔、畑ケ谷仲田、本人、平左ヱ門垣、堂所屋敷余、堂所
43	本人、内久保、行安
44	井手谷、犬谷、猿石、小五郎堀
45	猿石、岩坂、長畑、長畑尻
46	乗越、林ケ迫、勝負廻、屋敷余、行安、垰、坂口、垰屋敷余垰畑、垰屋敷余垰畑、垰屋敷、深坪
47	深坪、前田、坂口、屋敷余、垰屋敷、モンテフラ、垰、垰屋敷余、和泉、泉、原畑、道ノ下
48	和泉、北田平、葉出場、屋敷、屋敷余り、泉、原畑、植木ケ段、原畑道ノ上、小林
49	北田
50	一ツ久保、横手、井ノ木、榎、深坪、番正庵、家ノ上、道ノ下、正フ迫
51	勝負迫、鐘築、屋敷余
52	屋敷余、尽、尽奥
53	戸井ケ谷、小斗、笹ケ谷、井手下
54	長谷

55	中尾迫、中尾、柿ノ内、小斗、虫尾南平	58	堂ノ根木、橋詰、金ケ崎、石黒、四通、谷川、壱貫田、段原
56	叶迫、堂シホリ、割石、中尾迫	59	稲葉田、稲葉、段、段屋敷余、谷川、前田、寺田
57	石田、西ケ平、段屋敷余、段、段原、十枚堀、寺堀、欠田、沙田、後ケ市	60	芹田、芹田西平、叶迫
		61	高畦、二〆田、下場、小原、道ノ下

阿　用　地　区

大字川井

1	石ケ平、郷瀬谷	36	馬之背
2	船頭垣、門畑ケ、平門畑ケ、平	37	大平、宮箱、大成下平、大成
3	折坂、折坂ソ子、折坂谷、郷瀬谷	38	山之神、山之神谷
4	中宇根、中ヲ子奥、中ヲ子奥ソ子、中ヲ子道ノ下	39	横山、吉床尻
5	平分、大仲田	40	吉床尻、木戸ノ奥、吉床、吉床家ノ向、吉床家ノ上、吉床芦谷越
6	宮ノ奥北平、宮ノ奥、梅ノ木ソ子、山ノ谷、下恩田、西山、境谷、境谷上ノソ子	41	芦谷、芦谷向ノ谷、芦谷尻
7	恩田	42	布子、布子谷、込ケ渕ヲ子
8	宮ノ谷頭、山ノ谷、宮ノ谷	43	辰ケ原、鈩床、辰ノ口
9	家ノ上、宮ノ上、宮ノ奥、宮ヲ子	44	込ケ渕、丸山、魚切、上小僧渕、横手下タ
10	宮垣、宮畑ケ	45	川平横手下、乗越、川平、奥鈩、川平家ノ向、奥鈩川向、川平家ノ上、小屋谷尻、小屋谷、ナメラ、小屋谷尻川向
11	大下ケ市、宮田、宮ノ前	46	大延、寺床、ジリ
12	前田、松ケ原	47	上藪渕尻、藪渕
13	石畑ケ、川端、案内ケ先	48	小僧渕
14	石畑ケ谷頭、石畑ケヲ子、石畑ケ、石畑ケ谷	49	真梨子、上川原、金谷
15	立平、垣内	50	金谷、本金谷
16	石畑ケ	51	小林、上ケ市、金穴
17	播磨垣、堂垣、サコ山、サコソ子	52	榎原、家ノ奥
18	堂垣宇根、堂垣奥、堂垣、堂垣谷尻、立平	53	川角
19	明戸ヲ子、東山、源入寺	54	栃木
20	明戸ソ子、明戸奥、明戸、井手床、明戸上ノ平、山ノ平	55	徳明、立田
21	山ノ平、寺ノ脇、坂口	56	真野ケ平
22	迫、サコソ子、小林ソ子	57	椎ノ木、椎ノ木ソ子、椎ノ木谷、カハラ坂
23	土井奥、堤ノ奥、岩棚、野田ヲ子、金糞	58	柳谷、兀(禿)ラ谷、西山、黒岩
24	土井	59	黒岩、西山
25	平田、禅僧院、森ノ下	60	管谷、割谷
26	海ノ平	61	真梨子、長尾谷
27	大ノ谷	62	カバ子、林ケ谷
28	森之下、寺之前	63	兄子田、徳明兄子田、上兄子田、堂垣堀、下カ谷、カ谷
29	松ケ迫、寺ノ上、丸尾、掛平、井手ノ奥	64	林ノ下、大内谷、大内谷谿(埓)ノ前、谿(埓)ノ前、シブキ山川角
30	小川家ノ向	65	大内谷、大内谷家ノ下、隠谷
31	金穴、中ノ谷尻	66	遠戸堀、大内谷、高畦
32	寺谷奥、寺谷	67	金堀、山ノ神
33	中ノ谷、中ノ谷家ノ向、中ノ谷東平、山ノ平	68	大内谷、大内谷家ノ上、大内谷川端、空輪、野干田
34	日焼		
35	小迫、小迫頭、芭蕉		

69	大口縄、馬谷、川ノ上、小馬谷	75	大内谷、亀谷、岩谷、小馬尻ノ向
70	鈩原、六郎谷、蜂巣谷、大六郎谷、峯山坂	76	久野谿(埓)、久野越、沢田、清久山、柳谷
71	小六郎谷、六郎谷	77	梅ノ木谷、下梅之木谷、上梅之木谷、狼谷、上狼谷
72	清久谷、大六郎谷	78	西山
73	峰山、清久谷尻、家ノ上、本谷、家ノ向、小炭床、釜ケ谷、大松ケ谷	79	東山
		80	清久山
74	福田堀、峯山		

大字東阿用

1	板橋、青木、塚田、竹添、横枕、深坪、下才目、上才目、落井、川原、川田、下原田、ドウケ堀、高垣、大下前、外川原	12	尾崎前、野田、田端、上井木、井木、下田端、以後田、上以後田、明下、外戸井、五城堀、井木奥
2	市道、山根、門田、家ノ脇、家ノ迫、松ケ迫、山居、水ノ手茶畑、大下、桑ノ木迫	13	樋口谷
3	後山、大首、帽子坂、和田、外ケ市	14	仏精田、矢内原、二ツ久保、鍛冶屋田、馬保関、塚田、下女田、上沖、大久保田、椿縄手、高畦、登立、下沖、三反場、深坪、水神深坪
4	要害下、要害、井戸ノ上、折田、矢内原、向川原、原田、紺屋畑、家床、庄屋々敷上り畑、門田、福留、井手ノ内、家ノ前、薬師、要害下	15	治部田、立田、石田、亀田、上市場、水神深坪、京田、神子田、鍛冶屋田、大沢
5	庄屋畑、寺屋敷、元寺領、土戸井、持田、穴畑、小丸山、坂本	16	市屋敷、島田、六表尻、出見世、森田、角田、下角田、上森田、以後田、竹ノ下、樋口前
6	滝尻、切通シ、大曲リ、蓮花、扇谷、滑谷	17	樋口、樋口上、引地成、長屋ノ上、長屋、便坂、才ノ木、畑ノ向
7	谷ノ坊、下休、下休奥、上休	18	大畑、案内先、大畑道下、若宮
8	柳谷、土手津、三右ヱ門谷、蟻谷、堤谷	19	大畑奥
9	磨石、野田奥	20	石ケ平、畑、畑ウ子
10	清水尻、笹屋、滝尻、明下、宮ノ後、滝戸、元神領	21	段畑、コンタカ迫、段畑ウ子
11	立ケ迫、鉄穴地、福王寺、夏梅田、寺田、流レ		

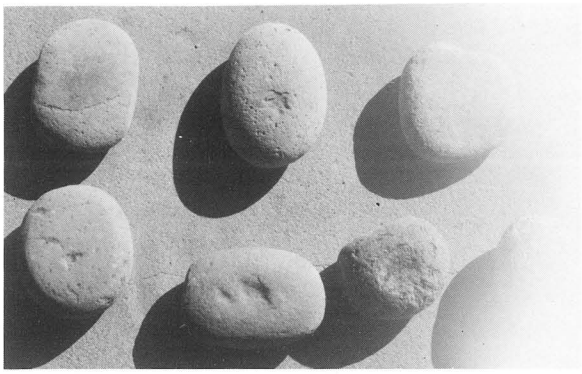
大字岡村

1	三反田、寺ノ後、岩崎、岩崎屋敷	18	ソリ田、樫木
2	山根、松迫	19	羽広、紙屋田、紙屋ケ市、紙屋、荒神ケ迫
3	若宮迫、若宮ウ子、若宮	20	大沢寺、宮ウ子、大沢寺、ヲ子
4	善ヱ門屋敷、鉄穴堀	21	宮ウ子、川本、横屋、前畑、宮ノ前、神田、谷川、宮田畑(八幡社)、川平
5	岩崎川原、太田、口田、唐草田、六反田	22	宮ノ谷、宮ノ谷尻
6	下瀬谷、宮ノ前	23	谷川、鳥ノ木、森、郷ノ崎、郷ノ崎東平
7	上瀬谷	24	森脇、仏升田
8	深坪、上神後田、塚田、立子田	25	弓場奥、高畦、家ノ奥、弓場、弓場奥下モ切、弓場奥東イコ弓場奥西平
9	長迫、長迫尻	26	堂田、荒田、荒田奥、堂田荒田、下モ田、堂田平
10	井手領、十王、才道尻	27	金付免、薦迫
11	迫ノ上、迫、才道谷、下才道、上才道、才道	28	山ノ神谷、長畑ケ、岩ソ子、土俵頭、土俵、家ノ上
12	登立、欠田、梅木田、五反場	29	石堀、石堀西側、小谷、小谷ノ上、小谷家ノ上
13	門脇、岡ノ前、三久保田、立石、岡、井手尻、川原、前田	30	石堀、石堀奥、中ノ奥、小谷奥、広ヨリ上、広奥
14	恵比須	31	三ケ瀬、三ケ瀬東平
15	流田、吉田、土橋、鳩峯、一畑山、仲田	32	家南(明賀)、明賀家ノ上、明賀、家ノ前、竹ケ鼻、明賀上平
16	奥田		
17	ウ子ガサコ、長ウ子、十郎		

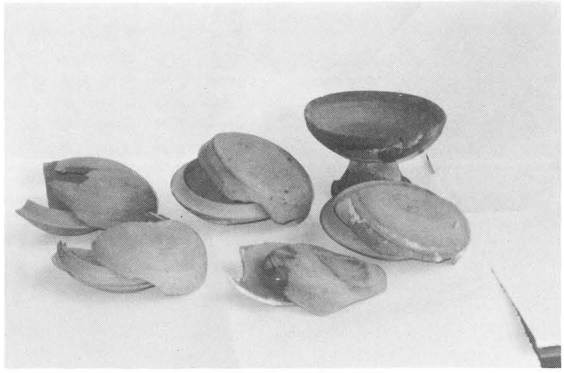
	明賀下モ平、家ノ谷	34	中ケ奥、中ケ奥ウ子、踏田
33	大田、中ケ内、中ケ市	35	蛇畑

大字阿用下分

1	井手挾、加茂目、三表場、鋳物屋	24	野田、三峠
2	加茂目、向川原、藪ノ内、川端、井手端、下分、砂田、鋳物屋、砂田土手外	25	野田、平迫、三峠、観音前
		26	三峠、向迫、菅代、柿元、叶迫
3	イヤ谷尻、イヤ谷、井手挾、鋳物屋、山本、下分家ノ前、砂田、山根、下分	27	荒神前、屋敷余、柿元、下土井、奥中、才ノ峠、三峠
		28	下掛屋、向迫、叶迫、菅代
4	家ノ脇、下分、山根、宮ノ前、西ノ宮、刎床、井手挾	29	柿元、菅代、堤ノ上、叶迫、掛屋、又下、西ケ谷
5	宮ノ谷、宮ノ上ミ、屋敷余、中ノ深、折坂、刎床、駒、西ノ宮、チクイカタン	30	柿元、松ノ前、才ノ崎、堤ノ上、又下
		31	和草、又下、西ケ谷
6	刎床、山崎奥、四百田、屋敷余、折坂	32	掛屋、掛屋々敷余、下掛屋、屋敷余
7	松迫、立平、山崎奥、杉ノ谷、折坂、四百田	33	掛屋、屋敷余
8	駒、駒谷、大平寺	34	掛屋、荒松、屋敷余、掛屋迫、掛屋々敷余
9	駒、前田、大平寺	35	漆谷奥、荒松、屋敷余、漆谷
10	井手挾、水落、駒ノ前、中ノ坪、砂田、駒	36	鍛冶屋、板橋、谷口、二仲屋、熊ノ田、漆谷奥、漆谷、道戸
11	駒、川端、大平寺	37	家ノ脇、二仲屋、熊ノ田、漆谷奥、井ノ頭
12	水落、横枕下、大木原、四通田、落井田、屋敷床、田井中、井手端、大木原境、田井中屋敷余、横枕	38	井ノ頭、屋敷余、仲ノ前、岡田
		39	鉄穴、向迫、岡田、仲ノ前
13	井手端、捨子田、大木原境、五十堀、四通田、布田	40	板橋、前田
14	荒神堀、亀田、布田、角田	41	鳶ノ尾、天場、下天場、笹畑
15	大窪田、亀田、角田、門畑ケ、野田	42	樋垣、叶迫奥、天場、叶迫、大窪田、笹畑、坂中
16	掛屋、青木、苗代田、下掛合、下掛屋	43	万坂、門畑ケ、鉄穴、六斗場、鐘築田、越前、一貫田
17	落井田、中川原、太田、青木、青木前	44	広岡、迫田、万坂
18	落井田、中川原	45	ケ市、前田、門畑ケ
19	漆谷、漆谷尻、荒松、中川原、欠田	46	小谷川原、広岡、高市
20	兀(禿)崎、漆谷尻、漆谷、井手頭	47	久野田、堤谷、広岡、小谷川原、扇谷、小谷尻、大曲
21	兀(禿)崎、板橋	48	以後田、棒ノ木、東ケ迫、金屋子、向田、真ノ前、深坪
22	野田	49	鐘築田、大窪田、深坪、林崎、三所田
23	野田	50	樋垣、坂中、大窪田



磨石凹石叩石(縄文時代)陰地地内出土



垣内古墳出土須恵器

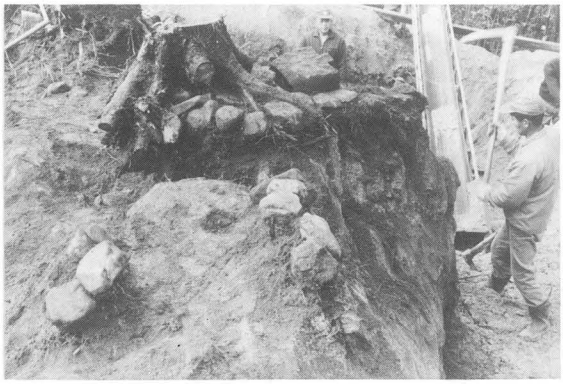
内久保谷横穴出土須恵器(1)

内久保谷横穴出土須恵器(2)

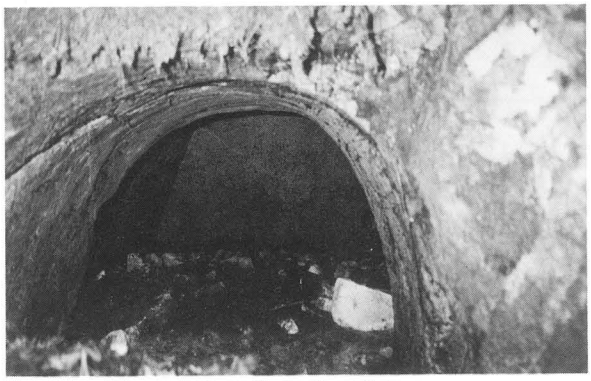
別所遺跡出土土馬

神代古墳出土鏡

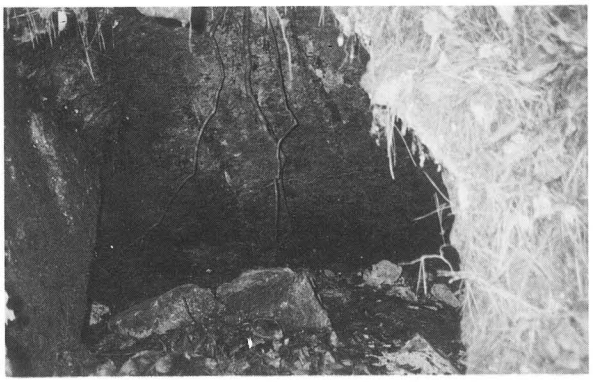
笹屋古墳



神代古墳発掘状況(昭46)

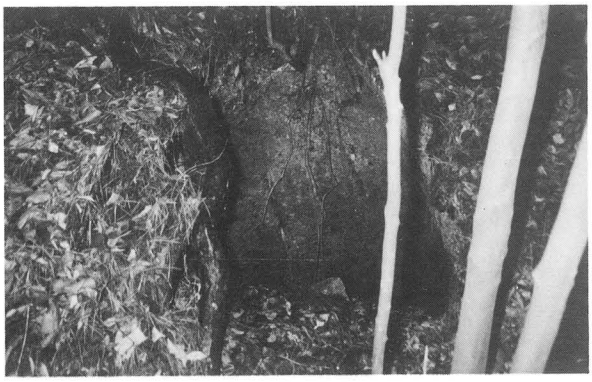


小谷横穴群A群1



小谷横穴群A群3

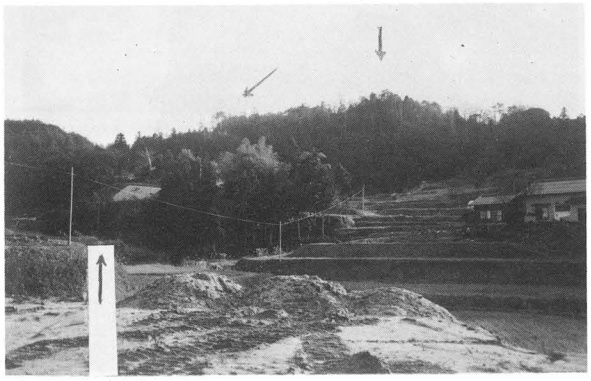
小谷横穴群A群2



小谷横穴群B群2

陰地宮ノ奥古墳群

陰地宮ノ奥古墳群



鏡横穴群と陰地宮ノ奥古墳群

鏡横穴群

山伏塚古墳群

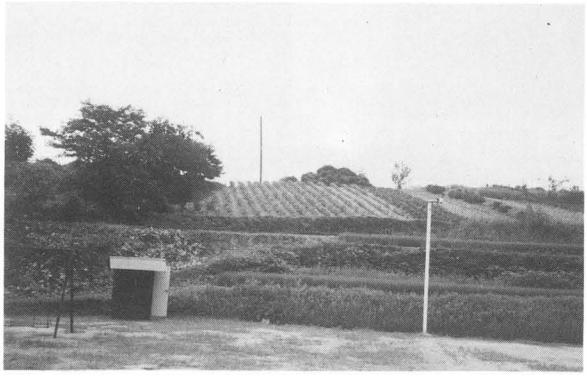
御室山横穴群

後山横穴群

舟木横穴群

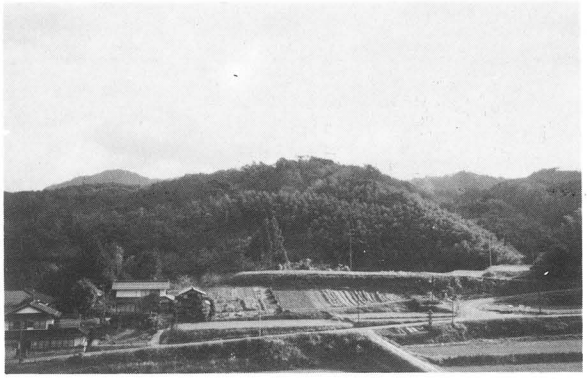
陰地宮ノ奥古墳群

総荒神古墳

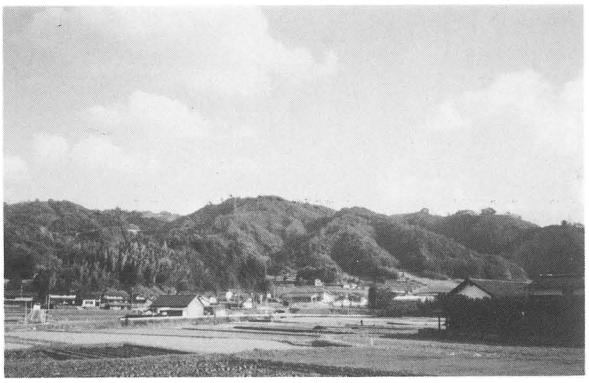


宮ノ前古墳群

叶坂古墳



松尾城跡(西から)

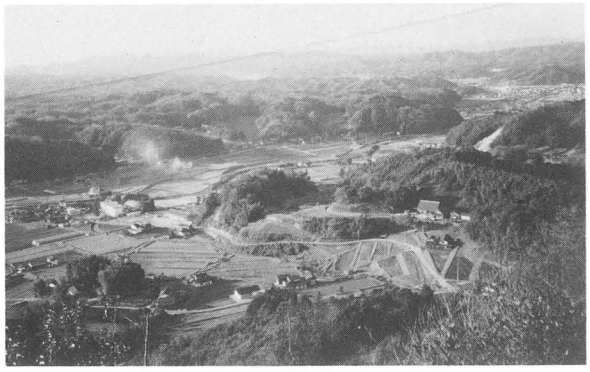


阿用城跡(北西から)

つくし城跡 堀切り部

阿用城跡 主郭虎口部

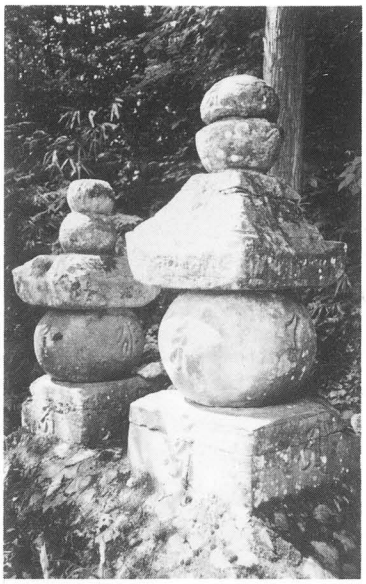
城戸城跡(北から)



福富城跡(蓮花寺から)

駒谷砦跡(北から)

日南砦跡(西から)



伝佐世伊豆守五輪塔

栗間家墓地内五輪塔

坊ノ前五輪塔

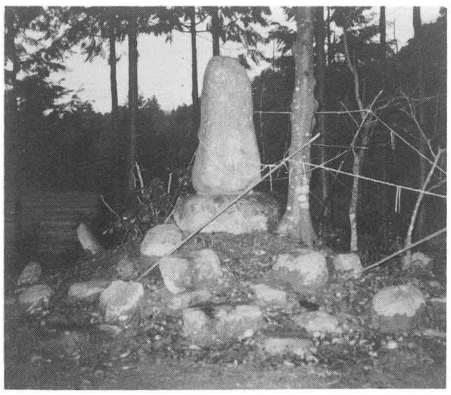
極楽寺跡廻国地蔵

阿用神社脇古墓

禅僧院古墓

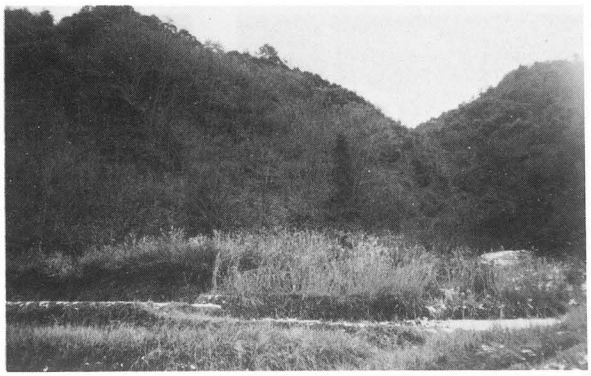
井崎宝篋印塔

川平古墓宝篋印塔



月根尾社跡

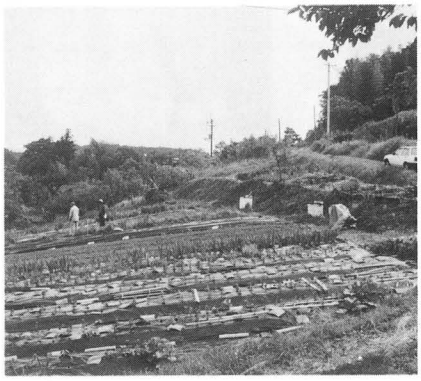
大内谷たたら跡

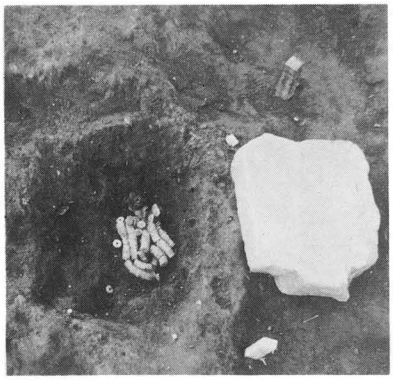


扇谷たたら跡

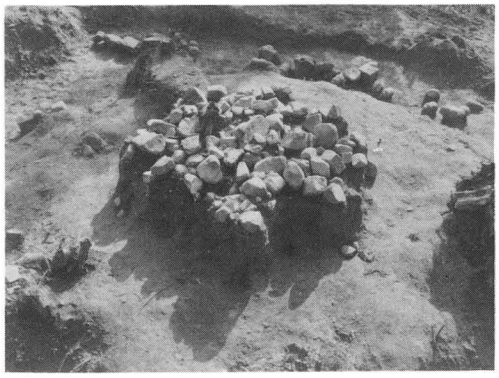
笹尾たたら跡金屋子神

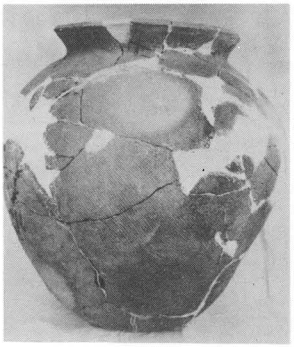
峯鈩原たたら跡

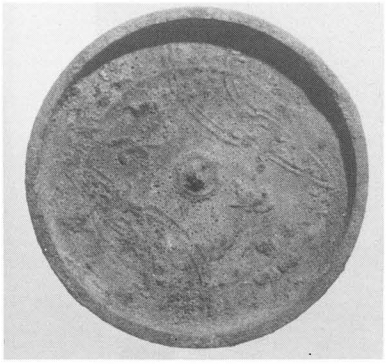




便坂遺跡と古銭出土状況







狩山経塚とその遺物

詳細分布調査

大東町の遺跡 Ⅲ

— 佐世・阿用 —

1991年3月

発行　大東町教育委員会
島根県大原郡大東町大字大東1673-1

印刷　曽田印刷
島根県大原郡大東町大字大東1017-1